

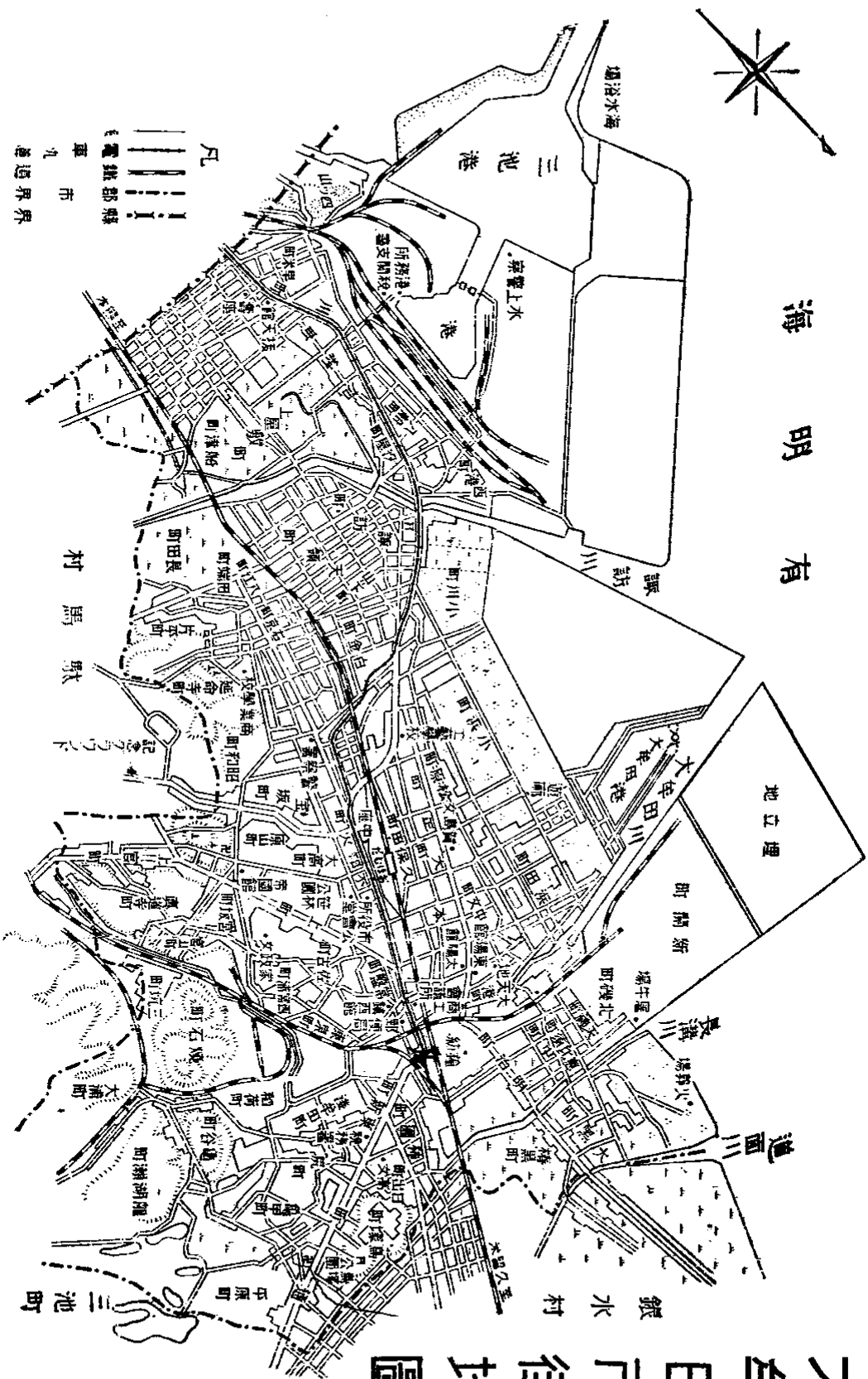
# 市勢要覽

昭和二十二年版

大牟田市役所



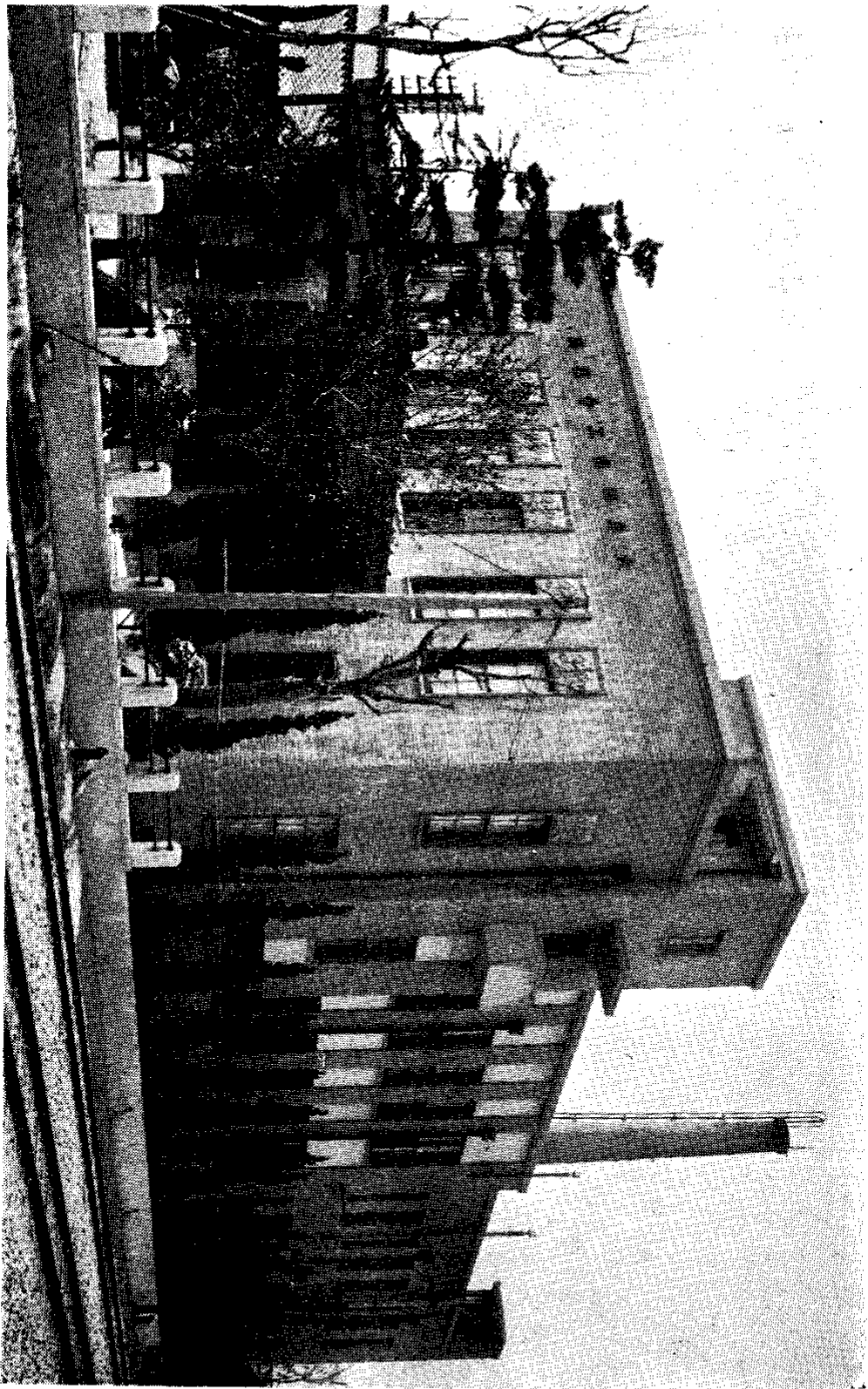
# 大牟田市街地圖



海 明 有

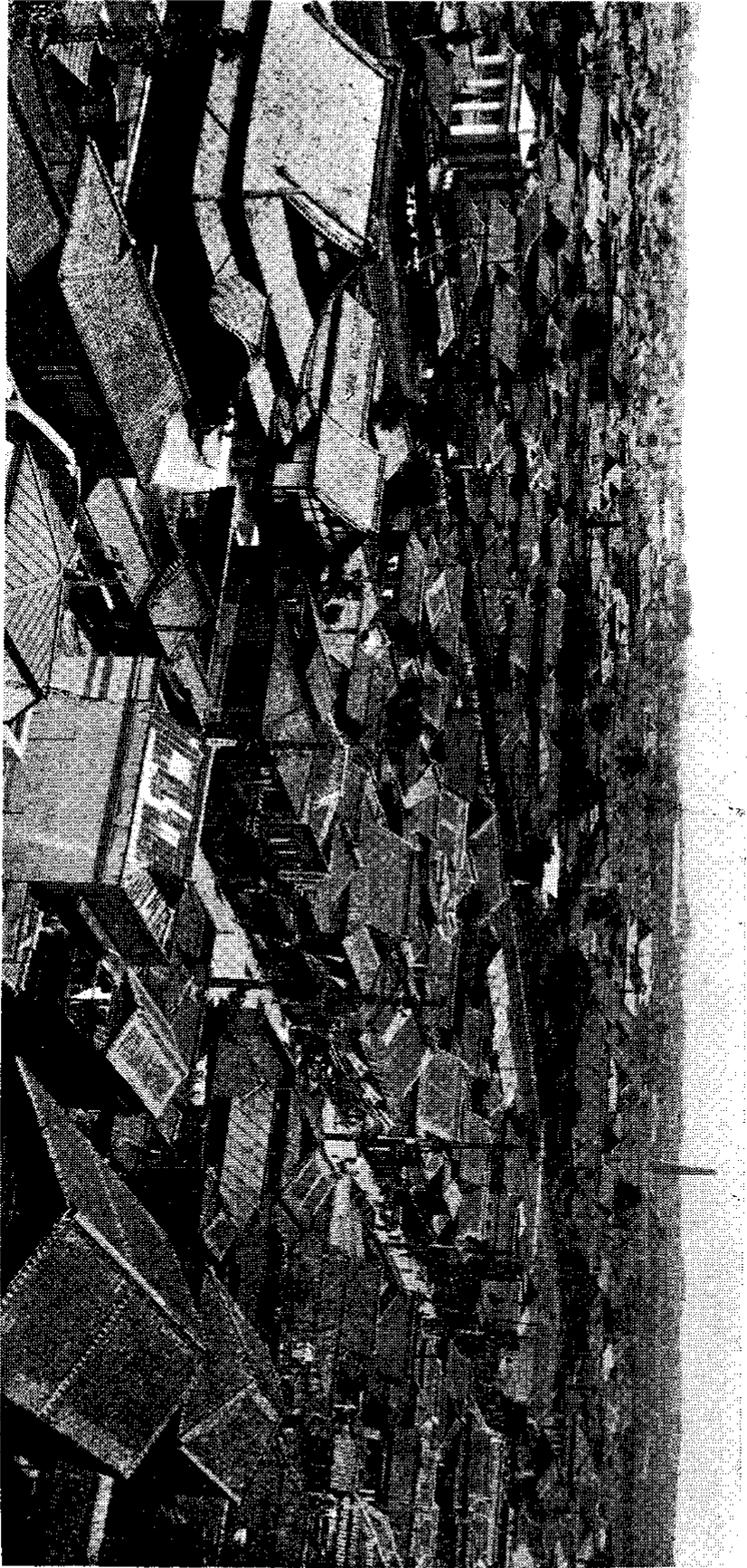
凡  
 電 鐵 部 縣  
 市  
 道 邊 界 界





大牟田商工會議所

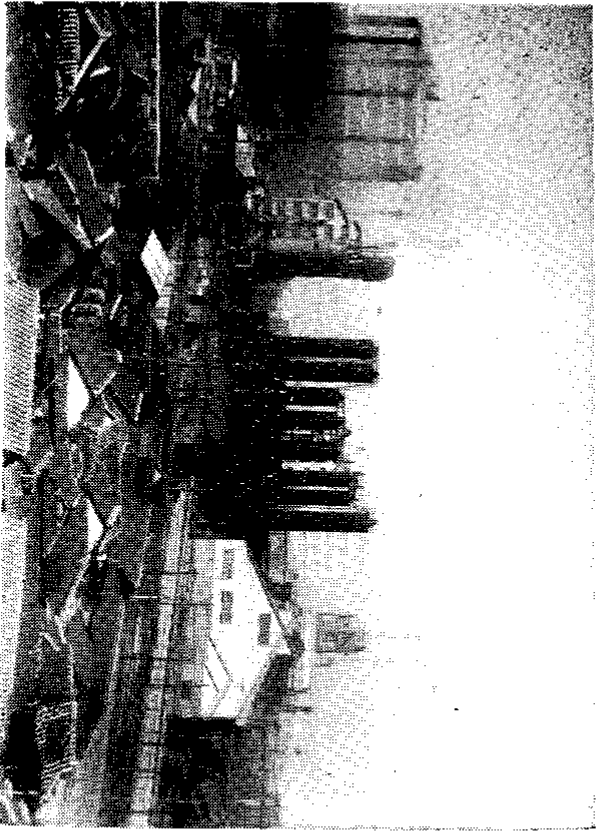




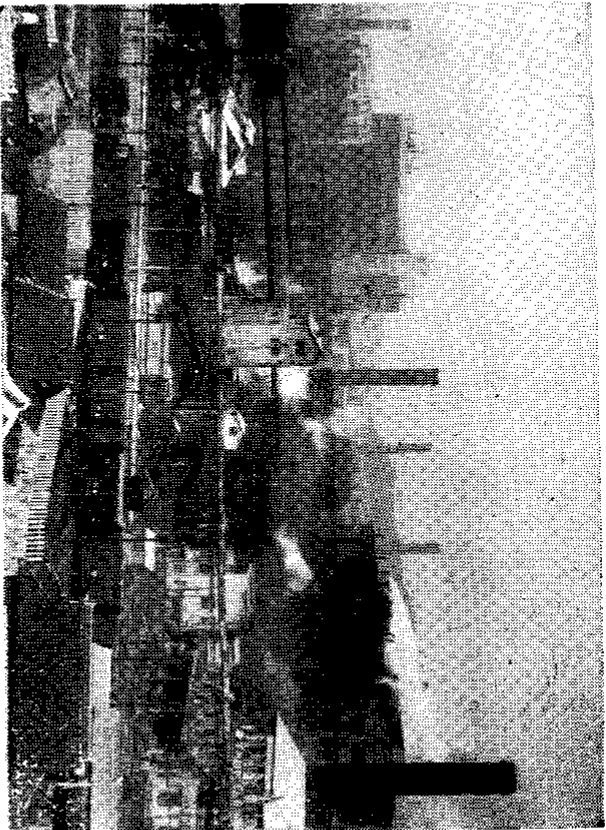
大 牟 田 市





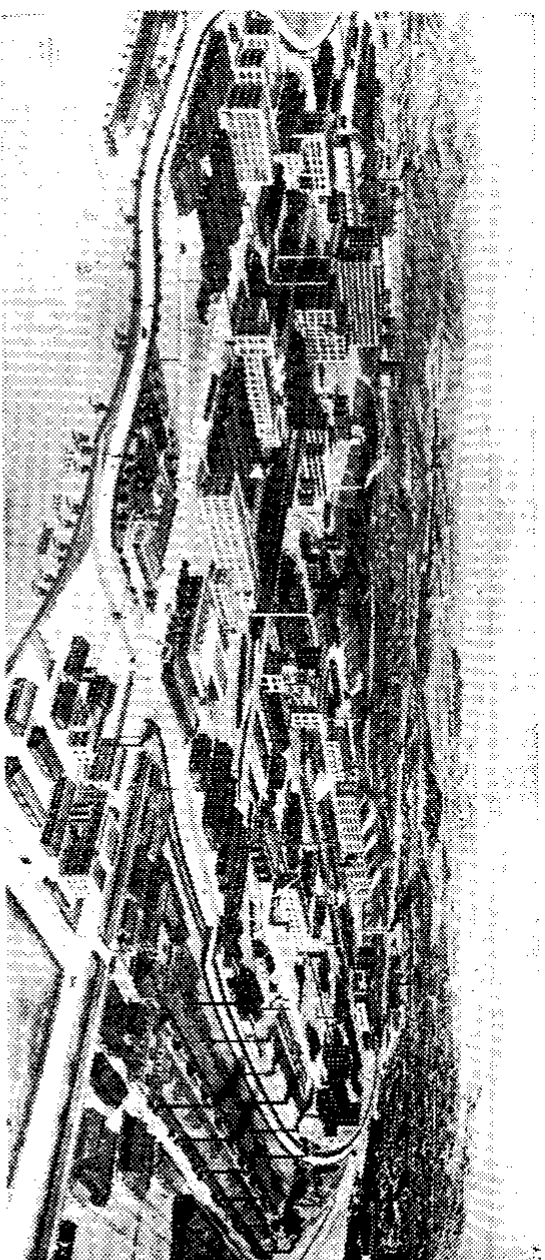


工場地帯(三)

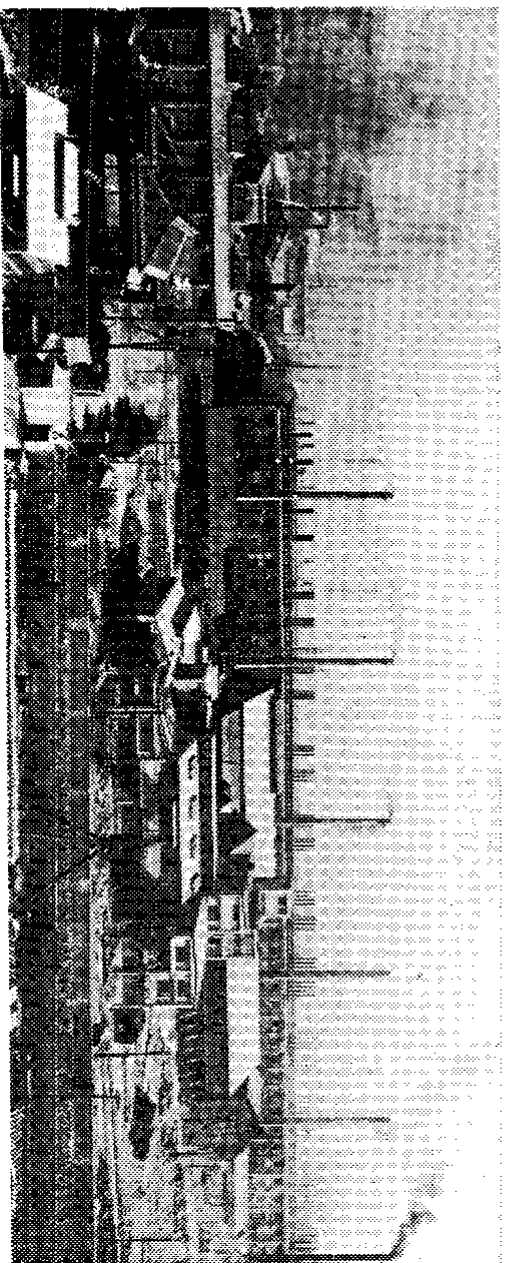


工場地帯(一)



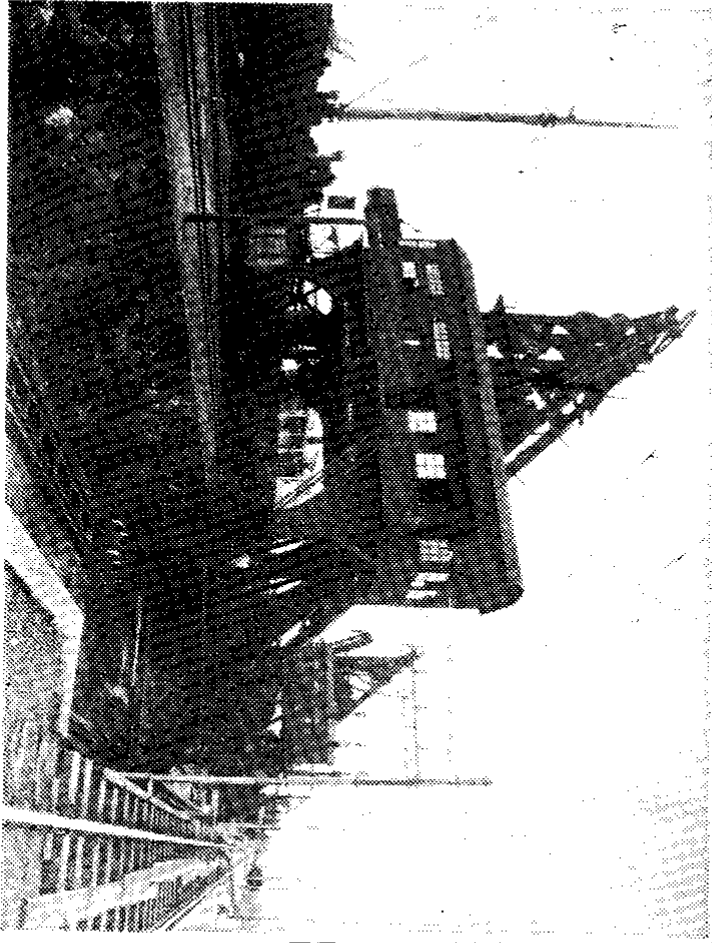


三池染料工業所

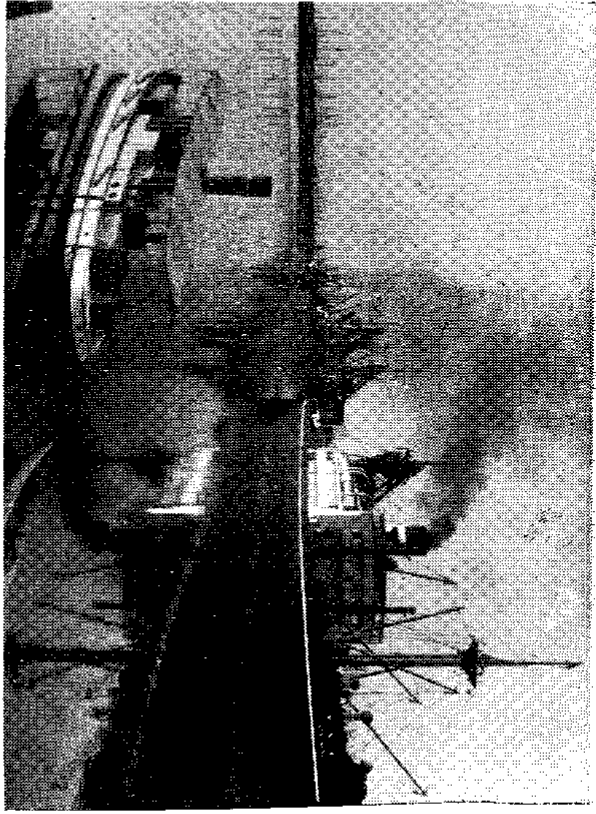


三池製煉所





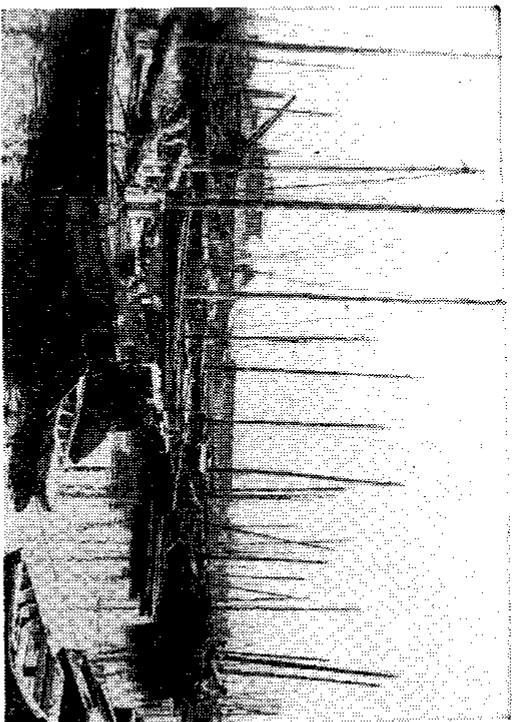
三池港







白金公園

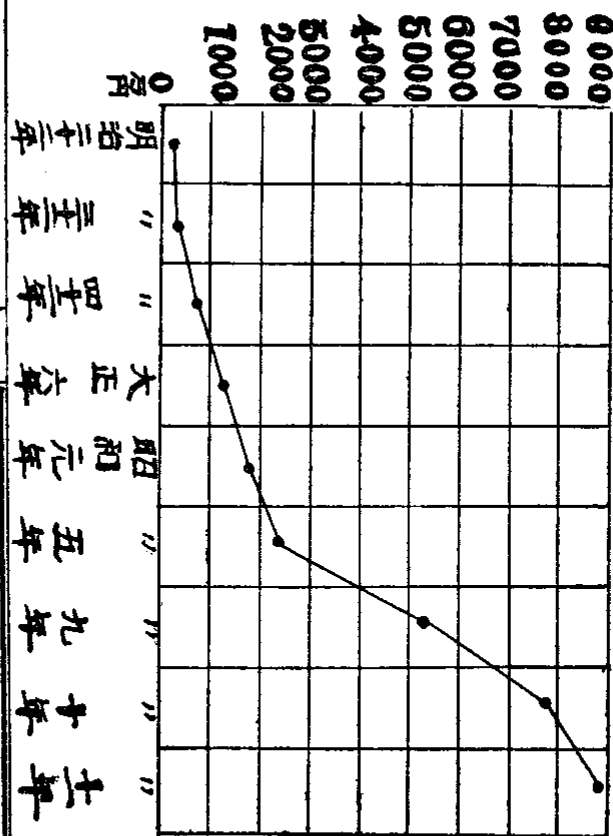


大牟田港

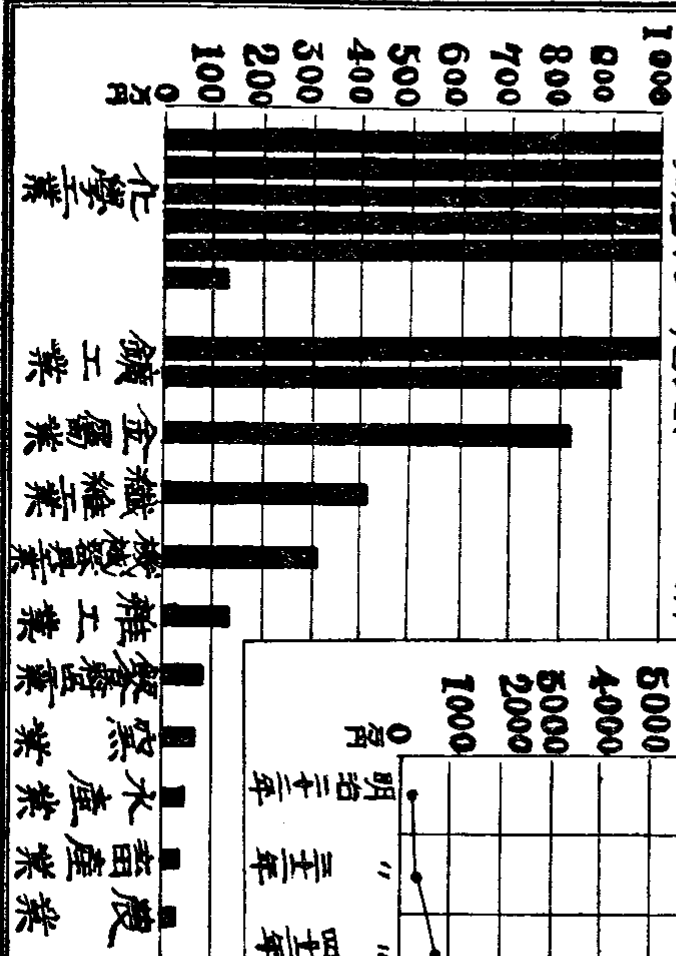




總生產額累年比較表(各年末)



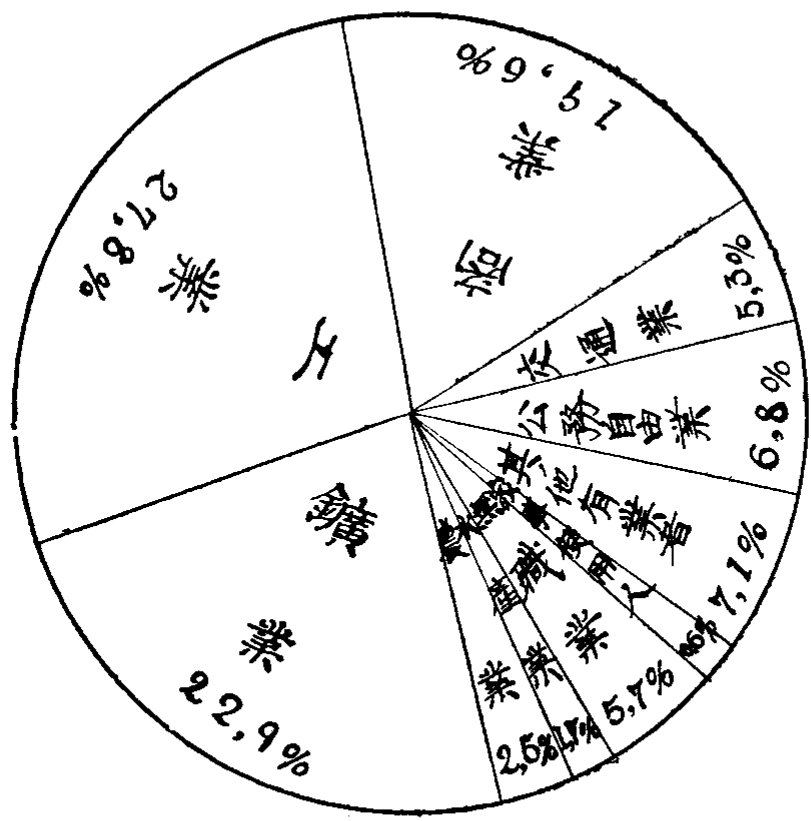
主要產物一覽表(昭和十一年度末)



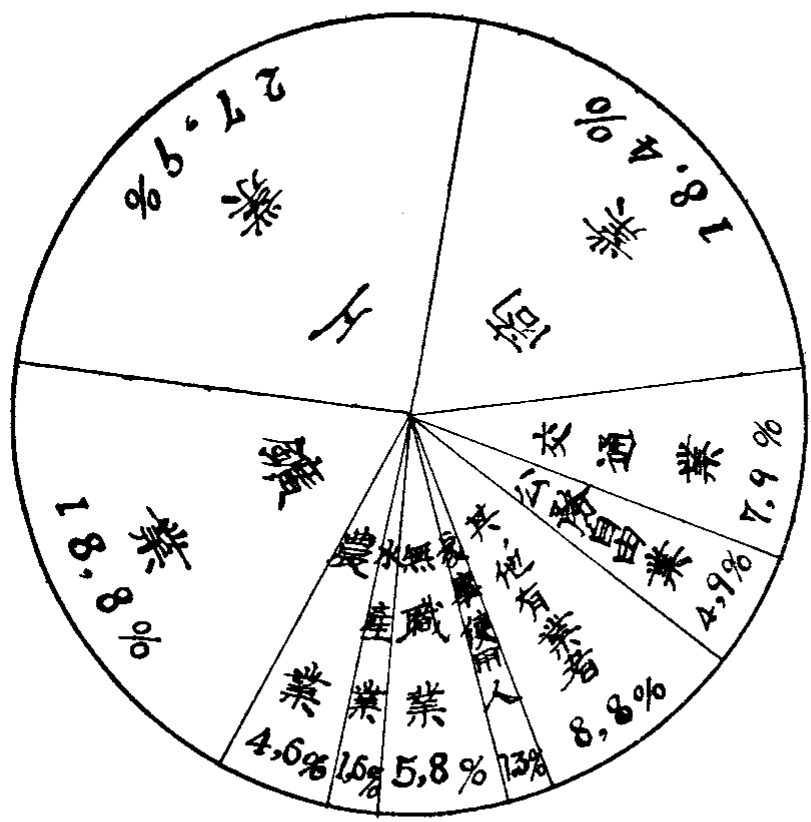


職業別戶數表

昭和十一年



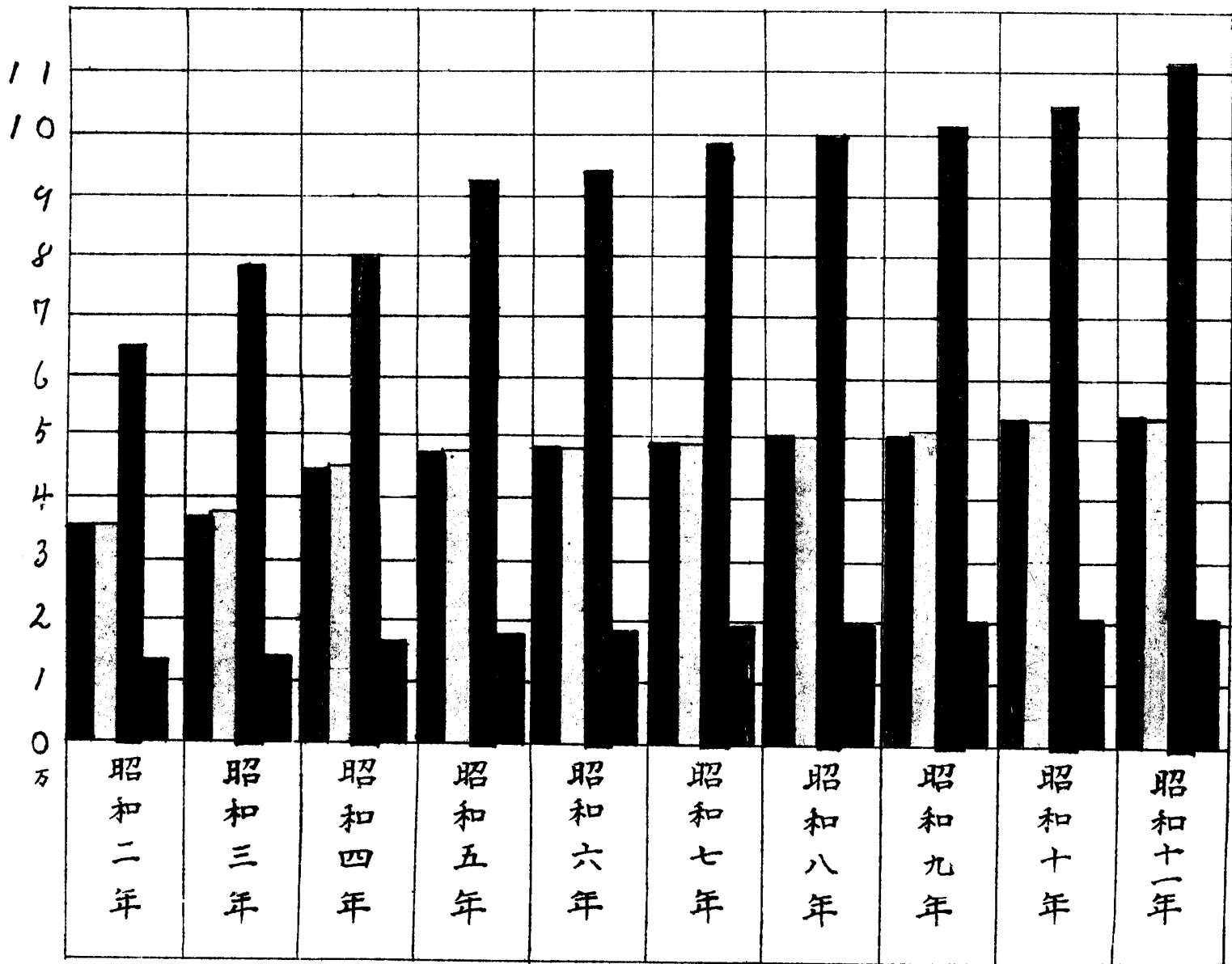
職業別人口表





# 人口戸數累年比較表

大牟田市



凡例

■ 女

□ 男

■ 人口

■ 戸數





第二章 鑛業工業

一、鑛業概說

二、工業

(イ) 工業生產額

第三章 商業

一、概說

二、金融

(イ) 銀行

(ロ) 質屋

三、市場

四、會社

五、各種組合

(イ) 產業組合

(ロ) 商業組合

(ハ) 漁業組合

(ニ) 農事組合

(一一)

(一二)

(一三)

(一四)

(一五)

(一六)

(一七)

(一八)

(一九)

(二〇)

(二一)

(二二)

(二三)

(二四)

(二五)

(二六)

(二七)



第四章 農

六、新聞社及通信社

(ホ) 副業組合

(ヘ) 實業組合

業

一、概況

二、農産物産額

(イ) 米

(ロ) 麥

(ハ) 食用農産物

(ニ) 蔬菜及花卉

(ホ) 果實

(ヘ) 工藝農産物

(ト) 養蠶

(チ) 緑肥

(リ) 觀賞用植物

第五章

水産業

(四一) (四〇) (四〇) (三九) (三九) (三八) (三五) (三四) (三四) (三三) (三三) (三三) (三元) (六)

第六章 畜產業

一、概況	……	(四)
二、水產物產額	……	(四)
三、水產物總覽	……	(四)

第七章 交通運輸及通信

一、概況	……	(四)
二、畜產物產額	……	(四)
三、畜產物總覽	……	(四)
二、交通	……	(四)
三、運輸	……	(四)
四、通信	……	(四)

第八章 港灣

(イ) 郵便物引受及配達數	……	(五)
(ロ) 電信	……	(五)
(ハ) 電話	……	(五)





# 大牟田市産業要覽

## 第一章 大牟田市概観

### 一、沿革

往昔本市は炊煙、微かなる一僻村にして古代に關しては其の史料に乏しく變遷の迹も詳ならざるも天正十五年以來（豊臣秀吉時代）は立花伯爵家の文書に據りて略々行制沿革を知ることを得即ち天正十五年より慶長五年迄は高橋彌七郎の領地たり、尋いで徳川氏が天下に覇を稱へ所謂公儀より元和六年立花宗茂に與へられたる下知狀に依れば三池郷五十五箇村の内四十七箇村は柳河藩に八箇村は三池藩に屬したり。

即ち今の大牟田市の舊部落たる大牟田の北部と横須は柳河藩に、稻荷、下里は三池藩に、大牟田の南部諏訪等は天領に屬し代官所を置き以て王政維新に至れり

明治四年廢藩の後一時は三潞縣の治下に屬せしが同九年福岡縣に合併され今日に及べり

之より先後土御門天皇の文明年間（今より凡そ四百年前）稻荷村の農夫傳治左衛門に依りて發見せられたりと傳へられし「燃える石」こそ抑々三池炭發見の始原にして爾來享保六年平野山開坑まで二百五十年間は里人が其の必要に應じて隨時に採掘せるも更に生山の開坑となり稍々炭山らしき組織となり明治に至れり明治六年政府が鑛山局を置き採炭事業を經營するに及び當地繁榮の機運は遽に兆し他郷よりの移住者漸次増加し明治二十二年町村制實施の際は大牟田、下里、稻荷、横須の四箇村を合せ戸數千七百人口八千八百四十を有する大牟田町の創成となれり同年炭鑛事業は三井家の經營に移り其の規模益々擴大し鑛工業の興隆は町勢の進展を招來し翌二十三年九州線の鐵道開通に及び停車場が設置せられ交通の便も彌々開け三十三年には此の地に郡役所が移轉し郡政の中心となり従つて金融の中心も自ら當地に移り茲に商工都市としての基礎が次第に確立せられたり。明治四十年には戸數五千八百六十余人口四萬八千八十余を數へ大正六年三月大牟田町は三池郡治より分離獨立し市制を施行し爾來歲と共に其の發達著しく則ち大正十一年には上水道の通水となり市民永年の用水缺乏の困苦は救はれ、同十二年には將來の發展に鑑みて都市計劃がその緒に就けり。かくて昭和四年四月隣接三川町を編入し人工規模を以て東洋一を誇る三池港の利用と相俟ち我が大牟田市は只管躍進の一路を辿りつゝあり。

「早米來の岩ヶ鼻よりや大牟田の小松原」と里人に歌はれた小松原には今や一本の松影もなく軒

並びに莫列なり渚は新開地となり又沼田はアスファルトの目貫街と化し只片平山が昔ながらの緑をたへ風致區域に推される時代となり想へば明治四十四年の「大牟田町是」の中に南は道路及田畔を以て三川村を限りとあり時代の變遷文化の開發の轉た隔世の感に堪えざるなり。

現在人口拾壹万余戸數貳萬千余本市が町として名乗を上げしより僅か五十年に満たざるの今日既に當時の十二倍を超過する大牟田市を建設せり。

之を要するに東洋に冠たる工業都市としての本市の發展は主として炭鑛事業の勃興に起因するものにして自然が提供する資源石炭の上に人類が打立てたる石炭文化の進展に依るものなりと言ふも敢て過言に非ず「そこに地方行政としての本市自体の目覺しい成長の姿を認め得らるるなり」

## 二、位置及地勢氣候

本市は九州の中部東經百三十度二十六分北緯三十三度一分に位し福岡縣の最南端、筑後平野の南隅にあり。西は不知火の名に高き有明海に臨み東は三池七山の連峯起伏し北は長溝川、堂面川の一部を隔てて銀水村に接し南は熊本縣玉名郡荒尾町と界す

地勢は東南に丘陵を負ひ西北及南端は平坦地にして市街地は總じて其の平坦地方面に發展し廣袤





四、氣 溫

月 別	氣 溫				
	午前十時	最 高	最 低	全 上 平 均	
一 月	三、六七	六、九〇	〇、七八	三、七八	三、七八
二 月	五、〇〇	八、七三	二、一八	五、三〇	五、三〇
三 月	七、八五	一三、三三	一、七七	七、三一	七、三一
四 月	一五、三六	一八、四四	九、一一	一四、三〇	一四、三〇
五 月	一九、五三	二三、四三	一三、〇三	一八、六六	一八、六六
六 月	二五、一〇	二九、二五	一七、八〇	二四、〇五	二四、〇五

計	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月
五	四	六	〇	五
三	一	三	八	六
五				
六	一		二	一
九	二	一	二	三
九				一
七	一	一	一	二
六	五	四	二	五
二	四	七	五	六
七	二	五	六	七
奎	五	九	一	〇
一〇	八	〇	八	九
一四	七	六	二	九
三	四	三	二	一
三				

平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月
一六、八八	一〇、五〇	一四、二一	一九、九六	二六、一〇	二八、〇六	二七、二六
二〇、二八	一三、〇六	一七、二五	二四、一四	二九、六八	三〇、八五	二九、三五
一一、二八	三、九〇	五、〇四	一〇、六八	一八、三六	二九、九一	三三、八六
一六、一四	九、一五	一三、〇九	一八、三六	二四、七一	二九、六二	二六、四九

### 五、戸數及人口

本市は明治二十二年町制を施行し爾來三井事業所の進展と共に漸次居住者の數を増し大正六年三月市制を施行し更に昭和四年四月三池郡三川町を併合し著しく市勢の發展を示すに至れり  
今本市三箇年に於ける戸口の實數並に最近職業別戸口の分布狀況を示せば左の如し

戸口表

年別	人口		計	戸數	一戸平均
	男	女			

種別	專業	兼業	計
農業	三〇八	三二八	五二六
水産業	一一〇	二五五	三六三
鑛業	二、九〇九	一、九四五	四、八五四
工業	二、九三三	二、九七四	五、八八七
商業	二、一〇八	二、〇二六	四、一三四
交通業	七七四	三三八	一、一三二
公務	九三八	五〇一	一、四三九
其他業者	四〇六	一、〇七五	一、四八一

六、職業別戸數調

(昭和十一年十二月末日)

昭和九年	昭和十年	昭和十一年
五〇、七七七	五三、〇三三	五五、四二三
五二、三六六	五三、六〇九	五五、八九六
一〇三、一六三	一〇六、六三一	一一一、三〇九
一九、九五五	二〇、三三九	二一、一〇五
五、二弱	五、三四強	五、二七強

家事使用人	1	118	118
無職業	73	470	1,101
計	11,074	10,118	11,105

### 七、職業別人口

(昭和十一年十二月末日)

種別	專業		兼業		被扶養者		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
農業	798	770	479	453	1,185	1,473	2,463	2,694
水産業	189	153	308	69	343	788	839	1,009
鑛業	7,253	4,700	938	441	4,209	7,437	8,389	8,348
工業	7,282	1,850	2,964	2,168	5,211	5,632	4,581	5,831
商業	3,583	1,375	1,516	1,445	3,245	9,134	8,344	9,543
交通業	2,244	435	453	438	2,093	3,125	5,208	8,777
公務自由業	1,206	495	336	227	1,377	2,383	3,659	5,913
其他有業者	1,583	807	1,048	993	1,651	3,710	5,361	9,791
計	23,390	11,074	10,118	11,105	33,611	33,611	44,722	44,722

家事使用人	六三	六三九	六九一	五三	三三三	三六五	一七七	八五	二六三	二九一	一、〇三七	一、三二八
無職業	一、八七四	一、〇三〇	二、八九四	九五三	二五一	一、二〇四	八二三	一、五三三	二、三三五	三、六四〇	二、七九三	六、四三三
計	三六、〇七三	八、〇〇三	三四、〇七六	九、〇三六	六、七八六	一五、八三三	三〇、三〇四	一、一〇七	四一、一五五	四一、三三五	八、九六	二一、三〇九

## 八、産業概説

本市は三池炭山有明海等の如き山來天與の富源に恵まれ三井鑛山及三井關係各事業所其の他紡績事業等日に隆昌發達を遂げ戸數人口亦著しく増加し純然たる鑛工都市を形成し海陸交通機關の整備と相俟つて之等各工場の生産能率も頗る向上し其の生産額は本市總生産高の約九割を占む次いで水産業は近年特に伸長の機運に向ひ淺海利用に依る海苔及貝類の養殖盛にして生産豊富と品質優良を以て其の名を博し遠く海外市場へも進出する狀況にあり。

農業は市勢の發展に伴ひ漸次耕地を縮少せられつつあり畢竟商工業の繁榮による都市自然の趨勢と云ふべく一面園藝方面に自然轉向を見市當局並に市農會の助長獎勵に依り果樹蔬菜の溫床早期栽培等漸増して其の成績も著しく向上し本市指物製品、竹細工、籐製品、軍用手袋と共に將來有望視せらるゝ所なり

商業方面は一般に小賣業者多數を占め商業戸數四、一三四戸を算し累年其の數を増加し鑛工業の進歩と共に短日月の間に長足の發展を來し躍進大牟田の現況を呈し居れり  
 最近は各商業者擧つて共同事業に重きを置き法人組織に改められるもの多く各種組合の設立は漸次其の數を加へ一般消費者も安價なる商品を購入し其の効果著しきものあり。  
 今其の生産別を示せば左の如し。

(イ) 生産總額 (昭和十一年末) (單位円)

種別	年次		
	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
工業産物	四三、九三九、三四四	五三、八五三、八一	六九、二三〇、五六
鑛産物	一五、五五五、四〇八	三三、五〇〇、〇〇〇	一九、一九八、七五四
農産物	三二二、九八一	二四二、二七六	三五八、五七八
水産物	五四一、六七三	五七〇、七九〇	四〇八、二二九
畜産物	二九四、〇三五	三六五、一六九	二九七、六六四
計	六〇、五〇八、三三〇	七六、三三一、三三〇	八九、二八三、六三一

備考 昭和十一年八九、二八三、六三一圓ノ内自家用、一五、一三一、三三七圓ヲ含ム

## 第二章 鑛工業

### 一、鑛業概説

三池炭鑛の發展は遠く四百有余年前にあり。稻荷山、平生山、生山の開掘に始まり當時此の三山を總稱して三池炭山と云ふ。蓋し三池炭鑛の名茲に始まる、明治六年同炭山を官有に歸せしめ同年七月大浦斜坑、同十五年二月七浦堅坑同二十年八月宮浦堅坑を開鑿し産額年を逐て増進せしが同十二年一月に至り政府は之が採鑛を民間を委ぬることとし三井家の經營する所となり明治二十七年勝立堅坑同三十一年宮原堅坑同三十六年萬田堅坑を開鑿し以上六坑共に事業の擴張に努め斬新精巧の機械を裝置し以て現今の盛況を見るに至り、加ふるに大正七年四ツ山堅坑の開鑿に着手し同十二年採炭を始む、同坑の深さ千七百尺にして東洋第一を以て稱せらる、現在採掘しつゝあるものは四ツ山、萬田、宮浦の三坑なり。

## 二、工業概説

本市工業製品の大部分は三井鑛山株式會社各事業所の製品を以て主とするも尙此の外に東洋高壓工場、九州共同火力發電株式會社三池出張所、鐘淵紡績株式會社三池支店、電氣化學工業株式會社大牟田工場等の製品あり。而して今や各製造會社は事業本來の使命に鑑み産業發達助成を主眼とし鋭意設備の改善、能率の増進利用範圍の擴充等所謂工業經營の合理化に努めたる結果其の製品は國內のみならず遠く歐洲、支那、南洋の各市場に供給し其の聲譽と信用を博しつゝあり。此等大工場の生産物を除く市内一般の工業品は未だ充分發達の域に達せざるも斯業者の自覺に依り逐年品質の改良生産の増加を示し漸次堅實なる事業の進歩に向ふの機運にあるを以て市に於ても極力之が助成奨励に努め益々製造技術の向上經營の改善を計り尙副業奨励各種品評會産業視察の方途を講じつゝあるを以て其の前途は必ずや見るべきものあるを信ず。

### (イ) 工業製産額 (單位円)

種別	年次	
	昭和九年	昭和十年
纖維工業	三、五三、一五三	四、二五、六三三
	生	産
		額
		昭和十一年
		四、〇四、九三九



## 第三章 商業

### 一、概況

商業は概して小賣本位の個人經營なれども時代の趨勢に伴ひ漸次統制ある經濟の下に立脚せる商業組合法に依る組合組織に改めつゝありて其の共同事業は年を逐ひ著しきものあり商品の取引狀況

金 屬 工 業	七、六五一、二〇〇	七、二六三、四〇〇	八、一八五、八〇〇
機 械 器 具 工 業	三、一九三、六七五	一、九九八、八〇五	二、九九五、七〇一
窯 業	七五〇、九九九	八一七、三四五	六〇九、四〇〇
化 學 工 業	二七、〇一八、八〇七	三六、七四九、二五〇	五二、二六五、三三四
飲 食 料 品 工 業	七三六、六三五	七六九、一六三	八二〇、八七九
雜 工 業	一、〇七四、七六五	一、〇五一、三〇五	一、二二八、四六三
計	四三、九三九、三三四	五三、八五三、八八一	六九、二二〇、五二六

は尙未だ他よりの移入に待つもの多く是等貨物の集散は陸運は鐵道、海運は三池大牟田の兩港に依り

## 二、金融

本市金融機關として主なるものは銀行業にして現在市内に左の五銀行あり、他に庶民金融機關として産業組合法に依る信用組合二個ありて組合員の金融に資する所大なるものあり。

### (イ) 銀行

銀行名	本店所在地	支店所在地
株式會社 三池銀行	旭町一丁目	三川町二丁目
株式會社 十七銀行大牟田支店	福岡市橋口町	築町
株式會社 柳河銀行大牟田支店	山門郡柳河町	有明町
株式會社 不動貯金銀行大牟田支店	東京市麻布區	有明町
株式會社 三池貯蓄銀行	旭町一丁目	有明町
計	五	



三	銀行銀		銀行ノ三		昭和十一年中	
	取組高	支拂高	代金取立	荷爲替	他所割引手形	(單位円)
三六、三四三、 一六〇	九、〇三四、 二七九	取組高	取立高	取組高	取立高	三、三六、一六九
二、九二六、 九七五	八、一四七、 九七〇	取立高	取組高	取立高	取組高	一、七〇三、一四〇
	三、九七二、 五七〇	取組高	取立高	取組高	取立高	
	三、九七四、 七七〇	取立高	取組高	取立高	取組高	

五	銀行銀		銀行ノ四		昭和十一年中	
	取組高	支拂高	代金取立	荷爲替	他所割引手形	(單位円)
上半期中	二四、五 <sub>厘</sub>	取組高	取立高	取組高	取立高	三、三六、一六九
下半期中	三三、六	取立高	取組高	取立高	取組高	一、七〇三、一四〇
	一三、八 <sub>厘</sub>	取組高	取立高	取組高	取立高	
	三三、三 <sub>厘</sub>	取立高	取組高	取立高	取組高	
	一四、三 <sub>厘</sub>	取組高	取立高	取組高	取立高	
	三、五 <sub>厘</sub>	取立高	取組高	取立高	取組高	
	二、八	取組高	取立高	取組高	取立高	
	二、八	取立高	取組高	取立高	取組高	
	三七、二 <sub>厘</sub>	取組高	取立高	取組高	取立高	
	三五	取立高	取組高	取立高	取組高	
	七、六 <sub>厘</sub>	取組高	取立高	取組高	取立高	
	六、七	取立高	取組高	取立高	取組高	
	六	取組高	取立高	取組高	取立高	

店數		前年末		本年		年 末	
件數	貸出殘高	貸 出	受 戻	流 入	貸出殘高	利 率	拾圓(月利)
件數	件數	件數	件數	件數	件數	最 高	最 高

質屋貸出金利息調

(昭和十一年中)

(口) 質 屋

小額金融機關としての質屋は當市營公益質屋を始め四十六戸にして貸出、受質、流れ狀況は左の如し。

銀行數		一年 間		年 末 現 在		種 別	
預り高	拂戻高	貯金人員	金 額	農 業	商 業	工 業	其ノ他
二 四、七〇七、四八四	四、四六九、六三三	一五、五七八	四、三三九、六三三	人員 一、〇六九人	金額 三〇九、七四三、八二九、二六三	三、七〇〇人	五、三五五人
							一〇、二八四人

銀行ノ五

(貯金)

昭和十一年中

(單位円)

三、諸市場調

四六	
金高	四九、五四
金高	九二、九七
金高	七二、三四
金高	七、三三
金高	六三、八七
最低	二步五厘
最低	三步〇
金高	一三九、五〇九
金高	三五四、九四二
金高	二八〇、三五八
金高	二九、一〇二
金高	一八五、〇九二
最低	二步〇
最低	二步五厘

四、會社

(本店ヲ有スルモノ)

會社名	本店所在地	支店所在地	市場數																									
			取	高	取	高	取	高	取	高	取	高	取	高														
三井鑛山株式會社三池鑛業所	東京市日本橋區	有明町	一月	二六二、六二〇	二月	二八八、九三〇	三月	二八九、〇九五	四月	二六九、〇三四	五月	二五、三四〇	六月	二七三、〇七	七月	二四、三三五	八月	二四、五三三	九月	二五、八五八	十月	三九、七八九	十一月	一八六、六七九	十二月	三六、三六〇	計	二、一四六、五〇四

株式會社

三井物產株式會社 三池支店  
 鐘淵紡績株式會社 三池支店  
 東邦電力株式會社 大牟田支店  
 九州共同火力發電株式會社 三池出張所

全  
 東京市向島區  
 東京市麴町區  
 東京市日本橋區

同  
 明治町一丁目  
 不知火町二丁目  
 新港町

會社名	所在地	營業目的	資本金
株式會社 川野洋品店	築町三二	洋品雜貨販賣	五〇、〇〇〇
大牟田興業株式會社	不知火町一丁目	金錢貸付業	二〇〇、〇〇〇
三池帆船株式會社	濱町五三	船舶運送業	一〇〇、〇〇〇
大牟田運送株式會社	不知火町一丁目	運送業	二〇〇、〇〇〇
大牟田瓦斯株式會社	築町二〇	瓦斯供給販賣	一五〇、〇〇〇
株式會社 大牟田魚市場	魚町	水產物委託販賣	三三、五〇〇
日本油脂株式會社	汐屋町一	油脂類製造販賣	一〇〇、〇〇〇

大牟田 靈樞自動車株式會社  
 大牟田 土地貸付株式會社  
 株式會社 鎮西 館  
 株式會社 富重石油店  
 大牟田 酒造株式會社  
 大牟田 牛乳株式會社  
 株式會社 大牟田花の露本店  
 大牟田 電氣軌道株式會社  
 肥後 木材株式會社  
 エタニツトパイプ九州販賣株式會社  
 割烹 大丸株式會社  
 大牟田 製氷株式會社  
 三池 商事株式會社  
 株式會社 陣内三省堂  
 大牟田 青果卸賣株式會社

上町 二丁目  
 本町 四丁目  
 泉町 一三  
 本町 六丁目  
 京町 二九  
 一浦町  
 曙町 一  
 白金町 二六一  
 濱町 四  
 濱町 四  
 大正町 一丁目三  
 柿園町 二丁目五  
 大正町 一丁目  
 築町 七  
 京町 四二

靈樞 諸式  
 土地 貸付業  
 貸 館  
 石油 販賣業  
 製 飴 業  
 牛乳 販賣  
 酒類 販賣  
 運 輸 業  
 木材 販賣  
 エタニツトパイプ  
 販 賣  
 料理 仕出 食堂  
 製氷 販賣  
 材木 販賣及金融  
 藥種 販賣業  
 問屋 業

一三、五〇〇  
 一〇、七〇〇  
 三五、〇〇〇  
 一五〇、〇〇〇  
 七〇、〇〇〇  
 二二、〇〇〇  
 二〇、〇〇〇  
 一、〇〇〇、〇〇〇  
 五〇、〇〇〇  
 一〇〇、〇〇〇  
 二〇、〇〇〇  
 一〇〇、〇〇〇  
 一八〇、〇〇〇  
 一〇〇、〇〇〇  
 一〇〇、〇〇〇



大牟田荷主運輸株式會社	旭セメント株式會社	三池無盡株式會社	肥筑物產株式會社	三池土木株式會社	九州相互土地建物株式會社	有明商事株式會社	株式會社圓佛商店	株式會社圓佛古賀商店	朝日木材防腐株式會社	文化加工紙株式會社	株式會社松屋
不知火町一丁目	不知火町一丁目	築町一七	不知火町一丁目	榮町一丁目	不知火町	不知火町一丁目	濱町四	濱町四	汐屋町二八	不知火町三丁目	本町一丁目
運送業	セメント製造販賣	無盡業	石炭賣買業	土木建築請負及勞力供給	建物月賦販賣建築請負不動產賣買	物品販賣	坑木材木販賣	林業	木材販賣	印刷業	百貨店
三〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇

合資會社		會社名	所在地	營業目的	資本金
合資會社	マルウ陶器店	旭町一丁目	陶器類販賣	五、〇〇〇	
大牟田商事合資會社	東新町二丁目	金錢貸付業	三〇、〇〇〇		
合資會社	お光	笹林町六	席貸業	三五、〇〇〇	
合資會社	中村商會	西港町二丁目	食料品及電機器具販賣	四、〇〇〇	
合資會社	吉武商店	束新町	硝子類及電機器具販賣	一〇、〇〇〇	
合資會社	丸新フトン店	不知火町一	販賣並額稼製造販賣	三、〇〇〇	
合資會社	紙貞本店	有明町二二	綿フトンカヤ販賣	一〇、〇〇〇	
合資會社	南筑製氷所	大正町一	紙卸業	一〇、〇〇〇	
合資會社	清力商店	元町一一	和洋酒食料品販賣	二〇、〇〇〇	
横山合資會社	大正町二丁目	米穀販賣	四、〇〇〇		
合資會社	松崎商店	旭町一丁目	海產乾物商	五、〇〇〇	
合資會社	三星陶器店	本町一丁目	陶磁器販賣	五、〇〇〇	

計 二五	合資會社	紫垣商店	上町九	種類製造販賣	二、〇〇〇
	合資會社	大牟田銃砲火藥店	旭町二丁目	銃砲火藥類附屬品販賣	六、〇〇〇
	合資會社	惠針堂時計店	上町一丁目	時計販賣及修繕	二〇、〇〇〇
	合資會社	津多屋羅紗店	築町一六	羅紗既製品販賣	二、五〇〇
	合資會社	早川時計店	有明町二五	時計及金屬品販賣	三六、〇〇〇
	合資會社	甲斐田益三商店	上町三丁目	古物商	三〇、〇〇〇
	相互商事 合資會社	竹下商店	有明町二二	金錢貸付業	三、〇〇〇
	合資會社	永井益太郎商店	明治町一	自轉車販賣修繕	一、七〇〇
	合資會社	朝日屋進物店	魚町八	海產物食料品問屋	六三、〇〇〇
	合資會社	井手作商店	上官町三丁目	進物品販賣	一、〇〇〇
	合資會社	津多屋吳服店	日出町七	諸油販賣卸小賣	五〇、〇〇〇
	合資會社	マルセン吳服店	築町一三 橋口町二	吳服反物雜貨販賣 吳服販賣業	五、〇〇〇 四〇、〇〇〇

合名會社		會社名	所在地	營業目的	資本金
		九大製糖合名會社	鳥塚町一八八	製糖業	10,000
		だるま綿合名會社	明治町三八	製綿業	一五,000
		合名會社 三池商會	三川町三丁目	船舶食料品商	一,一八三
		合名會社 藤田商店	港町一六	木炭商	二〇,000
		合名會社 すゞや樂器店	有明町七	樂器蓄音機商	二〇,000
		合名會社 古賀百貨店	有明町二四	百貨店	八〇,000
		合名會社 西京庵	旭町一五	料理業	六〇,000
		合名會社 マルナガ醬油久原本店	諏訪町二丁目	醬油釀造販賣業	六〇,000
		合名會社 綜合村尾病院	寶坂町	病院	五〇,000
		合名會社 錦屋商店	有明町二	化粧品小間物販賣	三〇,000
		合名會社 藤木商店	旭町	砂糖商	四〇,000
計	一一一				

### 五、各種組合

産業の振興發展は固より當業者各自の發奮努力に俟つべきも之等同業者の団体組織に依り組合共同事業は更に大なる効果をもたらすこと明なり。此の觀念の益々普及するに伴ひ各種組合の組織せらるるもの次第に多く顯著なる成績を擧げつつあり。

各種組合	
産業組合	七
商業組合	四
漁業組合	三
農事組合	一五
副業組合	五
實業組合	七六
計	一一〇

### (イ) 産業組合

組 合 名	所 在 地	組 合 員 數	設 立 年 月	出 資 金 ( 拂 込 濟 )
有限責任大牟田庶民金庫	有明町	七六	大正十一年九月	三五、一〇〇 <small>円</small>
信用組合三池共愛購買組合	旭町三	一八、三〇	大正十二年五月	九三、六五〇

(口) 商業組合

有限責任三池番船購買組合	北濱田町	一九七	昭和二年二月	一八、三六〇
有限責任三池港信用組合	三川町一丁目	七九	大正六年四月	三、一九〇
保証責任大牟田海苔信用販賣購買組合	大正町四丁目	三	昭和七年九月	一三、五〇〇
保証責任大牟田畜牛販賣購買利用組合	田端町	一七	昭和八年七月	五、〇〇〇
保証責任大牟田販賣購買組合	大牟田市役所内	二五	昭和十年七月	七〇八

大牟田製氷卸商業組合	大正町一丁目	四〇	昭和九年九月	四、五〇〇
三池菓子商業組合	有明町	四	昭和九年十一月	八、二〇〇
大牟田洋服商業組合	本町三丁目	三	昭和十一年二月	六、四〇〇
大牟田茶商業組合	有明町	三	昭和十二年二月	五、〇〇〇

(八) 漁業組合

組合名	組合員數	區	域
大牟田漁業組合	三一五	舊大字大牟田ノ區域	
諏訪漁業組合	二四四	元三川町大字川尻一圓ノ區域	
早米ヶ浦漁業組合	二四四	元三川町早米ヶ浦ノ區域	
計	八〇三		

(二) 農事組合

組合名	組合員數	組合名	組合員數
横須農事組合	三八	船津農事組合	三〇
稻荷農事組合	四六	加納上農事組合	二六
新地農事組合	二四	加納下農事組合	二二
松原農事組合	六六	早米來農事組合	一一

片平農事組合  
 諏訪第一農事組合  
 諏訪第二農事組合  
 後村農事組合

四三  
 三一  
 一八  
 三一

本町農事組合  
 下里農事組合  
 龍湖瀨農事組合  
 計

一五

三八  
 二八  
 二一  
 四六四

(木) 副業組合

組名	組合員數	設立年月	所在地
大牟田市副業實行組合	一七	昭和九年九月	大牟田市役所内
大牟田養蠶實行組合	一八	昭和九年十一月	大牟田市役所内
大牟田養兔副業實行組合	二〇	昭和九年十一月	明治町一丁目
大牟田養鶏副業實行組合	二〇	昭和九年十月	大牟田市役所内
大牟田軍手製造副業實行組合	三五〇	昭和十年四月	明治町一丁目
計	四二五		



## (八) 實業組合

名	稱	組合員數	名	稱	組合員數
大牟田	印刷業組合	一二	大牟田	旅館業組合	五七
〃	印刷業組合	一八	〃	卸商組合	一〇
〃	南部食堂組合	三〇	〃	髮結業組合	九〇
〃	發明協會	三〇	〃	貸座敷業組合	一七
〃	履物商組合	六八	〃	蒲鉾商組合	一三
〃	二業組合	四八	〃	傘製造業組合	二一
〃	米穀商組合	一六〇	〃	綿業組合	五〇
〃	塗裝看板業組合	四八	〃	壘製造業組合	九五
〃	陶磁器商組合	一五	〃	指物建具商組合	五五
〃	時計貴金屬商組合	四〇	〃	染物業組合	二四
〃	蓄音器商組合	六〇	〃	ラヂオ商組合	九
〃	理髮業組合	二〇〇	〃	植木商組合	二〇

大	大	藥	藥	開	化	土	佛	文	古	古	洋	莫	鐵	荒	材	
牟	牟	劑	劑	局	粧	木	檀	房	物	物	太	蔭	工	物	木	
田	田	師	師	藥	品	建	業	具	商	商	物	商	組	乾	商	
魚	魚	會	會	劑	小	築	組	商	組	組	吳	組	合	物	組	
仲	仲			師	間	請	合	組	合	合	服	合	合	商	合	
買	買			會	物	負		合			商			組		
組	組				商	業					組			合		
合	合				組	組					合					

一	一	四	五	三	一	三	七	三	六	三	一	一	七	一	三	
六	六	四	二	三	六	二		〇	〇	〇	五	〇	〇	八	六	

大	大	酒	湯	三	大	自	質	京	醬	周	寫	自	清	三		
牟	牟	類	屋	川	牟	動	屋	染	油	旋	真	轉	涼	池		
田	田	卸	業	湯	田	車	業	悉	製	業	師	車	飲	番		
砂	砂	商	組	屋	小	業	組	皆	造	組	協	商	料	船		
糖	糖	組	合	業	型	組	合	業	業	合	會	組	水	組		
商	商	合		組	自	合		組	組			合	組	合		
組	組			合	動			合	合			合	合	合		
合	合				車							合	合	合		

一	一	六	九	二	八	七	七	一	一	一	一	一	六	五		
三	三	〇	〇	〇	〇	二	二	九	九	二	五	三	〇	九		

六、新聞社、通信社

名稱	所在地
肥筑番船組合	雜業組合
〃	〃
不知火發動汽船輸送組合	興業人組合
〃	〃
西洋料理組合	藝妓置屋業組合
〃	〃
製麵業組合	食肉販賣業組合
〃	〃
洗濯業組合	食堂組合
〃	〃
建築左官材料商組合	味噌製造業組合
〃	〃
人力車業組合	大牟田料理屋業組合
〃	〃
表具商組合	三川料理屋業組合
〃	〃
沖商組合	鎊工組合
〃	〃
硝子商組合	綿友會
〃	〃
石工組合	〃

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

四〇 一八 一二 三〇五 二九 一三 六〇 一〇 一〇 一三 一五

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一〇 四 八五 五八 二二〇 五 七二 三九 六〇 二八

## 第四章 農業

### 一、概況

本市の農業を概観するに耕地面積二七五町農家戸數五二八戸にして農家一戸當耕作反別は五段二

大牟田	毎日新聞社	不知火町二丁目
大牟田	時事新聞社	谷町
西海	毎日新聞社	築町
九州日報	大牟田支局	大高町
福岡日々新聞社	大牟田支局	大高町
九州日々新聞社	大牟田支局	寶坂町一丁目
大阪毎日新聞社	大牟田通信部	寶坂町一丁目
大阪朝日新聞社	大牟田通信部	不知火町二丁目
肥筑	毎日新聞社	不知火町一丁目
計	九	

大牟田	毎日新聞社	不知火町二丁目
大牟田	時事新聞社	谷町
西海	毎日新聞社	築町
九州日報	大牟田支局	大高町
福岡日々新聞社	大牟田支局	大高町
九州日々新聞社	大牟田支局	寶坂町一丁目
大阪毎日新聞社	大牟田通信部	寶坂町一丁目
大阪朝日新聞社	大牟田通信部	不知火町二丁目
肥筑	毎日新聞社	不知火町一丁目
計	九	

種別	年別		
	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
米	六三、八三 <sup>四</sup>	七〇、五二〇 <sup>四</sup>	六三、六九七 <sup>四</sup>
麥	四四、二四五	五三、一七〇	六三、五六七
食用農産物	一七、五七七	一九、三三五	一八、一七四
蔬菜及花卉	六七、九〇三	七五、四八七	八三、四七一
果實	一二、六九三	一六、八二六	三三、二〇三
工藝農産物	三五八	四二一	五九七
養蠶	九二八	九三五	一、五三六

## 二、農産物産額

(昭和十一年末)

畝一八歩農産物總生産額二五八、五七八圓にして之を農家一戸當四八四圓四〇錢尙作物の反當平均收獲は三六、三五圓にして未だ概して單純且粗放の域を脱せず故に特に園藝奨勵の必要を痛感し市農會にて各種事業を計畫し極力誘掖指導に努めしめ以て改良進歩の實を擧げつゝあり今生産額を示せば左の通り

三、農産物總覽

(昭和十一年末)

種別	作付反別	收穫高	價額	其他	
				計	其他
(口) 麥				五、四六四	七、五四五
水稻	九〇三反	二、二五九	五八、八三三	三三、九八一	三三八、五七八
水粳	七三	一五〇	四、八七五		
計	九七五	二、二八九	六三、六九七		

		(八) 食用農産物			
種別	作付反別	收穫高	價	額	
大豆	七五反	九〇石		一、八〇〇圓	
小豆	二	九		三三四	
粟	三	一七		三四〇	
甘藷	二〇〇	九〇、〇〇〇貫		一〇、八〇〇	
馬鈴薯	一〇〇	五〇、〇〇〇貫		五、〇〇〇	
計	三九八			一八、一三四	
(八) 食用農産物					
大麥	一反	一		一三、一九四	
裸麥	六七二	八七一		五〇、三七三	
小麥	一、八〇一	二、八九五		六三、五六七	
計	二、四七三	三、七六六			

(二) 蔬菜及花卉

種別	作付反別	收穫高	價額
生大根	三〇段	一五、〇〇〇貫	一、三五〇圓
カブ	二〇	八、〇〇〇	八〇〇
ニンジ	一五	五、五五〇	一、三五〇
ゴボウ	二〇	六、四〇〇	一、一五三
里芋	五〇	一九、〇〇〇	三、八〇〇
レンコン	五〇	三、五〇〇	七、〇〇〇
ネギ	一四八	八八、八〇〇	一三、四三三
タマネギ	五五	二、〇〇〇	一八〇
甘藍	五	四、〇〇〇	四八〇
ツケナ(漬菜)	一三〇	八七、五〇〇	六、一三五
イゲン豆	一〇	八	一六〇
キウリ	三五	一〇、五〇〇	三、一五〇



	ク	ツ	ラ	ホ	ソ	エ	ト	ナ	マ	ス	カ	シ
計		ク	ツ	ウ	ラ	ン			ク		ボ	ロ
	ワ	ネ		レ			マ		ワ	イ		
		イ	キ	ン	マ	ド			ウ		チ	ウ
	キ	モ	ヨ	草	メ	ウ	ト	ス	リ	カ	ヤ	リ
1,140	四	一	一	130	13	六	170	150	五	三	130	四0
1,141	1,110	—	—	102,000	16	七	42,500	34,500	1,500	2,350	65,000	16,000
1,481	336	200	300	15,600	271	175	6,379	9,660	300	270	7,800	3,200

		(木)果實		
種別	樹數	收穫高	價額	
梨	二、八五〇本	一七、一〇〇貫	六、一五六圓	
日本梨	1	1	1	
西洋梨	1	1	1	
生柿	五三五	二、六三五	七、八七五	
ブドウ	八三五	八三五	四、一三五	
イチジク	九五	二八五	二八五	
ミカン	四、六〇〇	九、二〇〇	二、七六〇	
ウメ	二五〇	五石	七五	
モモ	三三〇	一、〇〇〇貫	六〇〇	
ビワ	四三〇	二〇〇	九六	
ナツメ	一九五	四〇〇	六〇	
其他柑橘類「ミカン」ヲ除ク	七三〇	九五〇	一七二	
計	10,810	1	三三,103	



(リ) 観賞用植物				(チ) 緑肥			
種別	数量	価額	備考	種別	作付反別	收穫高	金額
エゾ菊、キンセン花、百合、ダリヤ、其ノ他	二五〇、〇〇〇本	四、五〇〇		レ	100段	二六、〇〇〇 <small>貫</small>	八三
計	二五〇、〇〇〇	四、五〇〇		ソ	10	五、〇〇〇	110
				ラ	四〇	110、四〇〇	三、〇九
				青刈大豆	六〇〇	108、181	四、083

總	計	七、二六	二五八、五七八
---	---	------	---------

## 第五章 水産業

### 一、概況

不知火の名に高き有明海は潮汐干満の差十八尺餘に及び廣漠なる干潟を有し貝類及び海苔其他の水産物豊富にして本市は此の干潟利用開拓に努めつゝあるを以て斯業は漸次發達するの情勢なり。而して今奨励中に屬するは貝類及海苔養殖にして尙之等水産品の加工研究に一步を進めつゝあり。

### 二、水産物産額

(昭和十一年中)

水産養殖物	種別	年別
		昭和九年
	昭和十年	八、五〇〇 <sub>円</sub>
	昭和十一年	五二、四三六 <sub>円</sub>

沿水	計	五九一、六三三	三九六、〇三五	二八四、一三六
岸産		八三、六三八	六五、五四五	七三、五六七
漁獲		三九〇、七九〇	三九六、七四五	二八四、一三六
物				
品				

### 三、水産物總覽

(單位圓)

産水	殖養産水	種別 品名	年別			
			昭和九年	昭和十年	昭和十一年	
			生	産	價	額
粕節	其	ア	五、〇〇〇			
		コ	一、〇〇〇			
漬(貝柱)	其	ア	六、〇〇〇	二、〇〇〇	一八、九三六	
		マ	五、〇〇〇	六五、〇〇〇	三三、五〇〇	
類(其他)	其	ア	四、三三〇	四、四二〇	五、四八六	
		サ	八、五〇〇	一九、三三五	一七、一三〇	
類(其他)	其	リ				
		ヒ				

沿 岸 漁 獲 物								加 工 品						
其	エ	タ	イ	共	ア	ア	其	ウ	ク	ボ	カ	乾	佃	蒲
					カ	サ		ナ	ロ		レイ、	海		鉾
他	ビ	コ	カ	他	ガ	ヒ	リ	他	ギ	イ	ラ	苔	煮	類
一、五〇〇	三、一〇〇	六〇〇	一、〇〇〇	三三、一五二	四、五三三	五〇〇	四〇、〇〇〇	五〇〇	一、二六〇	四、三七〇	一、二二五	一、二六、八七五	二、三二〇	二六四、〇〇〇
一、四〇〇	一、五〇〇	四〇〇	八四〇	一、五〇〇			四〇、五二〇	三五〇		四、三三五	一、二〇〇	一、二、六〇〇	一、五〇〇	二六〇、〇〇〇
一、二五〇	一、二三〇	一、四〇〇	一、四〇〇	三、〇〇〇			二四、七九〇	一、〇五〇		四、三二〇	一、六二七	六三、八五〇	二、一六〇	一九五、五〇〇

		ア マ ノ リ		三三、五〇〇
計		五四、六七三	三七〇、七九〇	四〇八、一八九
漁	動力ヲ有スルモノ	一八隻	一八	一七
船	動力ヲ有セザルモノ	一四	一四五	一五〇
計		一六三	一六三	一六七

## 第六章 畜産業

### 一、概 況

本市畜産業は逐年發達の傾向を示し増産に向ひつゝありと雖も末だ不振の状態にして本市一部の需給充すに過ぎず今其の狀況を示せば次の如し

### 二、畜産物産額

(昭和十一年中)

(單位円)



家	成		合	產
	鳥	雞		
雞	數量	價額	數量	價額
	九、四四七	一〇、五四七	七、五二一	五、七五五
			一六、九五八	一四、三〇三
				一、二四三、四五〇
				三四、二七三

### 三、畜產物總覽

(昭和十一年中)

種別	年別		
	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
家畜	一五、五九四	一八、四三五	一九、〇〇〇
肉類	一八〇、二二九	二九一、六九七	三三、一九九
生皮類	五、九〇九	四、八二八	四、五〇〇
乳類	一七、三〇〇	二〇、二一〇	二三、三六〇
禽類	五〇、一〇三	三〇、一〇三	三七、六〇一
計	二四九、〇三五	三六五、一六九	二九七、六六四

昭和九年	年次	家畜	豚			乳牛			禽	
			價額	數量		價額	數量		價額	數量
二六	牛			牝	三、三〇圓	五八四石	搾入高	三三四 <small>円</small>	四六四	
三七八	馬	六六 <small>円</small>	一六五				搾乳場	八二 <small>円</small>	四〇九	
三五	豚	六〇 <small>円</small>	一五〇	牡	六		乳牛	四〇五 <small>円</small>	八七五	
一、五三五	山羊			合計			搾乳業者	三、三三八 <small>円</small>	一一〇、九六〇	
二、五五六	家兔	一、二六〇 <small>円</small>	三五	飼養者		六				
	計	三六								

養 兔		屠 殺		屠 殺 場	昭 和 十 年	昭 和 十 一 年
種 別	頭 數	種 別	頭 數			
白 色 種	1,400	成 牛	1,318	一	210	252
其 他	83	豚 馬 犢	1,443			
有 色 種	133	計	2,867		25	247
				肉	384	35
屠 殺 場	屠 殺 場	屠 殺 場	屠 殺 場			
頭 數	750	頭 數	4,159	量	7	1
價 額	437	價 額	4,169	量	2,655	1,421
	900		8,377	額	2,331	2,386
	77		16,688			
			71,393			
			23,199			
			42,703			
			150,070			
			11,673			
			8,754			

計	一、六〇五	七三	九七 <sub>四</sub>
---	-------	----	-----------------

## 第七章 交通運輸及通信

### 一、概 況

本市に於ける交通及運輸状態は鐵道及電車を主とし、自動車、荷車、船舶等に依るものは相當複雑煩瑣を極め都市の發展と共に交通機關は長足の進歩をなし産業文化上一大躍進の途にあり。

### 二、交 通

#### 大牟田驛乗降客調

(昭和十一年中)

乗		客		一日平均	
一等	二等	三等	計	乗車賃	降 客
三人	八、三九五人	九、九、八八三人	九、四八、二九〇人	六、五四、五四圓	九、九、八三五人
					乗 客
					降 客
					二、五九八人
					二、五三〇人

電 車

營業籽數	四、六籽	車輛數	一三輛	運轉車輛數	三、〇三輛	運轉籽數	五三、 一五一、三籽	乘客數	二、二三、四七人	收 入	一三、九六圓	一日平均 乘客數	五、七三人	收 入	三〇、六圓
------	------	-----	-----	-------	-------	------	---------------	-----	----------	-----	--------	-------------	-------	-----	-------

三、運 輸

大牟田驛鐵道手小荷物調

(昭和十一年中)

手 小 荷 物 數	發 送	九、〇九個	到 着	一四七、〇七個	賃 金	三、八六圓
-----------	-----	-------	-----	---------	-----	-------

大牟田驛郵便雜誌取扱數調

(昭和十一年中)

發 送	八四三個	到 着	四六、九四五個
-----	------	-----	---------

## 大牟田驛發送貨物調

(昭和十一年中)

品名	數量	主ナル仕向地
米	四四 <small>兩</small>	門司
麥類	九六五	鳥栖、小森江
藁類	七五三	三橋、矢部川、牛津
木材類	三、一六五	西八幡、忠隈
石炭	二七、五三三	熊本、高瀬、八代
コークス	一四、八七〇	猪谷、青海、黒井
鑛及綱	五、八九八	西八幡
鐵及綱	二、九〇五	西八幡、船尾
鹽	八、〇三五	久留米
砂糖	三〇、四九六	荒木、熊本、博多
人造肥料	九七、五七七	九州各地、山陽、山陰一圓
肥料	九九〇	〃

米 藁類及製品	品 名	數 量	主 ナル 積 地
一三、〇四九 <sup>噸</sup> 三、三六九			門司 三橋、矢部川
計	飼料	一、四五四	高瀬、大野下
綿糸	セメント	一、七二六	梅田、久留米、鹿兒島
硝子類	ボロ類	四、六三九	熊本、鹿兒島
鐵製品及鋼製品	機械類	九七五	久留米、熊本
藥品類	藥品類	一、三三三	高砂、寶殿
		二、三三三	若松、鴨生
		一、二〇二	若松
		二八、四〇二	若松、梅田、東京
		二五、〇三三	

大牟田驛到着貨物調

(昭和十一年中)

陶煉	セ	石	綿	醬	砂	活	鐵	鑛	石	木	木	丸	果
磁	メ						鮮	及			材	太	
器	ト	灰	類	油	糖	魚	銅		炭	炭	類	類	物

二、一三二	五、四一九	二、六三九	四、三〇一	五、四七八	一、四三四	四、四八〇	三、三九七	一、三、九八	五、四八三	一、八、〇六六	二、八六四	九、九六七	二、四、八〇一	一、〇、五六一
新樂、有田	荒木	船尾	船尾	門司、小野濱	熊本	荒木、久留米	下關、戸畑、都城	門司、西八幡	猪谷、大野口	篠栗、後藤寺、伊田	人吉、鹿兒島	筑後大石、人吉	九州各地、日田、高原、一勝地、人吉	門司、下關、青森縣



本市に於ける通信機關は、大牟田郵便局及無集配三等局九局で近年著しく取扱數増加し來れり今其の狀況を示せば次の如し

全	全	全	全	全	三 等 局	二 等 局
明 治 町 郵 便 局	七 浦 町 郵 便 局	東 新 町 郵 便 局	上 官 町 郵 便 局	有 明 町 郵 便 局	大 正 町 郵 便 局	大 牟 田 郵 便 局
明 治 町 二 丁 目	七 浦 町	東 新 町 三 丁 目	上 官 町 三 丁 目	有 明 町	大 正 町 一 丁 目	旭 町 一 丁 目

四、通 信

鐵製品及鋼製品	一八、四〇八	宇部、新川、梅田、若松
機械類	四、八二	若松、梅田
藥品類	七、九三	若松、久留米
計	三三、〇六三	

		(口) 電信		普通郵便		(イ) 郵便物引受及配達數	
				種別	引受	配達	小包郵便
普通書留價格表記		七、三七、一三八 一三四、六四三 四、四〇三		六、七六九、七二 一三一、九三七 四、五四九		四八、二七五 二六、七〇六	
發着信		發着信		發着信		發着信	
九三、七三〇		一三七、七六六		一、二九五		一、四三五	
						三、二六六	
						內外中繼信數	

全全全

本町郵便局  
三川町郵便局  
三里郵便局

本町六丁目  
三川町二丁目  
大字三里

(木) 簡易生命保險 保險契約高		二〇八、七五三		三、六八、〇四七 <small>円</small>		一〇一、二八		三、〇八〇、二四五 <small>円</small>	
保險金支拂額		受		入		拂		戻	
		(二) 郵便貯金		口數金額		口數金額		口數金額	
(六) 電話		市外電話		市内電話		市外電話		市内電話	
		通話時數 料金		通話時數 料金		通話時數 料金		通話時數 料金	
二九、〇五四		七二、九四七 <small>円</small>		一〇八、三六二 <small>円</small>		二、三二		一、八四三 <small>円</small>	
二、三二		一、八四三 <small>円</small>		三六、三九六		一、九二五 <small>円</small>		一、九二五 <small>円</small>	

昭和十年		昭和十一年		昭和十年		昭和十一年	
件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
三、九三	五、四、八三 <sub>円</sub>	三、八〇	六、八、二六 <sub>円</sub>	四、五五	四、七、五〇 <sub>円</sub>	五、七四	六、三、三四 <sub>円</sub>

## 第八章 港 灣

### 一、大 牟 田 港

本港は昭和七年三月本縣告示を以て縣費支辨港灣に編入せられ現在之が改修工事を續行せられ南筑中樞の重要港灣として地方産業啓發上大いに囑望せられつゝある所なるも未だ港内水淺く且つ狹隘にして港灣の要素たる防波の設備乃至公衆荷積卸場の設備不完全にして船舶の碇泊に適せず、貨物集散上不便の點尠からず、然れ共三百噸内外の船舶は自由に出入し得て帆檣林立し數百の船舶常に輻輳し主として有明海沿岸、長崎、島原、中國各地に石炭及各工場製品を移送し近海より日常生活用品、建築用材等に移入しつゝあり將來本港設備完成せられんか九州沿岸は勿論全國各地との海

運の利便は更に増大し移出入状況に一大躍進を見ること明かなる處にして本港の改修は地方産業の啓發上本市民の齊しく切望せる所なり。今最近に於ける移出入状況を示せば左の如し

(イ) 大牟田港移出入貨物調年別表

年次	移出		移入	
	數量	價額	數量	價額
昭和九年	三五三、三六三 <small>噸</small>	四、〇二七、三八四 <small>円</small>	一五、〇二六 <small>噸</small>	三、二九、〇二七 <small>円</small>
昭和十年	一九六、二七一	四、〇三三、四〇八	一五、六五六	二、九八三、一八六
昭和十一年	二二三、七九九	四、一九五、三三九	二七、四〇七	三、〇七三、一六〇

(ロ) 大牟田港入港船舶表

(昭和十一年中)

種別	汽船		帆船		合計
	船數	登簿噸數	船數	登簿噸數	
貨客船	1	1	1	1	1
鐵道連絡及渡船	1	1	1	1	1
			三九	四七、二〇九	一、九七六
			一、五四七	六三、四七六	一〇九、六八五

計	遊漁	
	覽	船
	四三九	1 1
	四七、三〇九	1 1
	一、五四七	1 1
	六三、四七六	1 1
	一、九七六	1 1
	一〇九、六八五	1 1

(八) 大牟田港入港船舶噸數階級別調 (昭和十一年中)

計	帆船		汽船		船種別	總噸數
	登簿噸數	船數	登簿噸數	船數		
	1	1	1	1	一〇、〇〇〇噸以上	1
	1	1	1	1	一〇、〇〇〇噸未滿	1
	1	1	1	1	一、〇〇〇噸以上	1
	1	1	1	1	一、〇〇〇噸未滿	1
	六九、七九五	五八三	六九、七九五	五八三	一〇〇噸以上	1
	三九、八九〇	一、三九三	三九、八九〇	一、三九三	一〇〇噸未滿	1
	一〇九、六八五	一、九七六	一〇九、六八五	一、九七六	計	1

(二) 大牟田港移出貨物調 (昭和十一年中)

品名	數量	施	價額	圓	主ナル仕向地
硫磺	一三、九八一		一、五〇九、九三六		三角、長崎、諫早、尾ヶ崎、尾道、大川、中津、早津江、本渡
石炭	二〇、六三四		二〇七、九七〇		佐賀ノ關、四阪、小松、宇多津、大阪、若津、八幡
粉炭	四一、二九四		五五〇、八六一		二間戸、八代、姫戸、鏡、中、川、天草、三角、水俣
鑄粉	二六、九八一		三三四、四五七		三田尻、尾ノ道、西赤穂、高松、大阪、宇品
乙錳粉	六、三三九		四七、五〇七		東赤穂、山田、撫養、坂出波止濱、小野田
セメント	五三五		二、一〇〇		高松
鑛滓	三、二〇三		六七、二六三		鹿兒島、長崎、大川、大町、鹽田、鹿島
鐵鑛滓	一三、九一七		一五九、一七〇		佐賀ノ關
石灰	一五、一七三		二三八、二七〇		八幡
石灰	三、四四七		三五六、六八〇		大阪、大川、三角
鹽酸	八〇		四八		彦島
鹽酸	三六一		三、三三〇		朝鮮、住ノ江
硫酸	二、〇八五		三二、二七五		三角、多良

---

ピ	銅	沈	洗	塊	シ	中	中	水	バ	カ	ク	酸	硫	硫
ッ		澱	小		ン	塊	等	洗	ー	ー	レ	化	酸	酸
チ	鉞	炭	塊	炭	ダ	焦	焦	焦	ラ	バ	オ	鐵	滓	鉛
					1	煤	煤	煤	1	イ	ソ			
									硫	ト	1			
									安		ト			

---

二七二	一四	三七七	九四	二、七六一	二八、三四三	八三	一、三三〇	一一、三七〇	二〇〇	一七六	一、五〇〇	三三〇	一三、三二二	三二〇
-----	----	-----	----	-------	--------	----	-------	--------	-----	-----	-------	-----	--------	-----

---

四、六〇七	二、八二〇	四、五三五	一〇、九六八	三三、一三三	二八三、四三〇	一〇、七九〇	一七、二〇〇	一四七、八三三	三、〇〇〇	一四、三三〇	四、三七五	六九〇	六、〇六五	四、六五〇
-------	-------	-------	--------	--------	---------	--------	--------	---------	-------	--------	-------	-----	-------	-------

---

彦島  
 八幡  
 廣島  
 宇ノ島、三角、馬潟  
 三角、水俣  
 尼ヶ崎  
 佐賀ノ關、四阪  
 神戸  
 佐賀ノ關  
 八幡  
 門司、長崎  
 門司、長崎  
 託間  
 佐賀ノ關  
 飾磨

---



		(木)		(昭和十一年)	
		大牟田港移入貨物調			
品名	數量(量屯)	價額	主ナル仕入地		
鹽	二四	一、八九六	島原		
木炭	七三	三、一六八	有明海沿岸		
砂糖	四五	六、四〇〇	多良		
中外肥料	九〇	五、三三五	諫早、八代		
空依	四六〇	九、〇〇二	島原、天草、牛津		
煉瓦	四六八	四、〇五九	吳、尼ヶ崎		
粘土	四〇三	一、三〇九	彦島		
古金	一、二六三	四、三三〇	大阪、若津、下松		
其他	九三〇	三、五、六〇	繩、板、石油、豆類、藁、石粉、材		
計	二、三、七九	四、一、九、三九	木、空罐、空樽		
坑木	三、〇、八七	四、五、六四五	鹿兒島、佐敷、天草、田之浦、松合、川内		
材木	三、七、三五	九、三、八七五	水俣、津奈木、田之浦、鹿兒島		

板	硫	原	粘	セ	礦	石	耐	石	煉	瓦	砂	砂	木	薪
	酸			メ				火						
	空			ン										
	瓶	石	土	ト	石	炭	粉	粉	瓦			利	炭	

一九三	一、三九五	四、八九六	六、三九九	五、七四三	五、四三七	四、八三六	四、六三五	一、一〇九	五、八七六	四、〇八七	五、八三三	六、五七五	一、〇五一	五、五二〇
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

七、三五〇	一五、七〇三	一二、六五五	二、〇六七	一三、五三八	六九、八七四	三七、三三六	七、〇五七	三、八六五	七六、三八八	二九、七八九	八、八三五	一六、七三五	四七、三七三	九三、六六八
-------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	--------	--------	--------

大阪	小野田、志岐、本渡、島原	築島	鹽田、彦島	姫ノ浦、天草、黒崎、八代、大阪	片上	志岐、築島	天草、名古屋、阿村、柳	八代	大川、小野田、片上	柳河、大川	大川、高瀬、川尻	八代、米ノ津、川尻	多良、鹿兒島	天草
----	--------------	----	-------	-----------------	----	-------	-------------	----	-----------	-------	----------	-----------	--------	----



藁	大豆	竹	繩	石	酸	ダ	空	蜜	コ	ナ	箱	オ	茫	リ
四	一三	四二七	三八四	一、三八二	八	二九〇	一七三	一八	一、四七〇	一〇〇	一三五	五八五	一、三九一	二〇〇
一〇八	四四〇	六、〇三三	九、五七〇	五、五七一	二七三	六、〇九〇	七、四七九	一、五〇〇	一〇、一三〇	一、三〇〇	二〇、七七〇	二、九三五	一八、九一五	五〇〇
牛津	三角	多良、竹崎	大川、鏡	多良	水俣	蘆北、名古屋、廣島	水俣、島原、日之津、志岐	小天	門司	大阪	三角、長崎	鶴木山	名古屋、糸崎、宇土	名古屋

鮮	ダ	石	綿	石	枇	西	割	蠟	粉	泥	黑	鐵	米	登
計	イ			油										
	ダ													
魚	イ	灰	箱	杷	瓜	石	石	炭	炭	鉛	管			石

1104, 704

二 二〇 一五 四 二 五四 四三 二八 七六 五三 五八五 四三 一五 四六六

3, 041, 140

二七、〇〇〇	六〇	三〇〇	二〇〇	三三〇	一一〇	五四〇	一〇六	六四九	三〇四	二〇八	九、三四五	二、三五〇	三、〇〇〇	一三、九八〇
有明海沿岸	天草	八代	大阪	口之津	島原	登立	登立、天草	五島	長崎	崎戸	鎮南浦	大阪	大川	長崎

## 二、三 池 港

本港は大牟田市の南端を扼し三井鑛山株式會社が全然人爲的に四百萬圓の巨費を投じ明治三十年起工し同四十一年其の竣工を見同時に開港場に指定せられ爾來諸般の設備も完成し港勢逐年進展し來れるも從來三井鑛山株式會社の専用港たる状況にして一般市民の利用なかりしが市民多年の要望たりし公衆荷揚場開設も漸く昭和六年に達成せらるゝに至り現在之が工事を續行しつゝあり。荷揚場設備の曉は臨港鐵道の完成と共に地方産業の啓發上甚大の効果を齎し益々重要港の眞價發揮するや必せり。今其の狀況を示せば次の如し

(イ) 三池港輸出入貨物調年別表 (外國貿易)

年 次	輸 出		輸 入	
	數 量	價 額	數 量	價 額
昭和九年	三九九、四八噸	一九、三四〇、〇四八	八六、七〇九噸	一一、三三〇、八三〇
昭和十年	四三一、〇五六	一九、九五三、〇四八	一一八、六二〇	一四、〇〇六、八四六
昭和十一年	四六九、四六八	三二、一四二、一〇八	一三六、五九七	一三、八三〇、六二二

(口) 三池港外國貿易年別表

年次	輸出額	輸入額
昭和九年	六,四三八,五四三	三,一九九,一六六
昭和十年	七,〇八三,三三一	五,七〇六,九九八
昭和十一年	六,一五〇,一〇九	五,九三六,八六三

(ハ) 三池港入港船舶表

(昭和十一年中)

種別	汽船		帆船		合計
	船數	登簿噸數	船數	登簿噸數	
貨客船	六九三	七〇六,八五五	一一	一三,一三八	一,三四〇
鐵道連絡及渡船	六五九	一三,七七九	一一	一三,一三八	六五九
漁船	一	一	一	一	一
遊覽船	一	一	一	一	一
計	一,三五三	七一九,六三四	二二	二六,二九六	一,九九九
					七九三,二三三

(二) 三池港入港船舶數階級別調

(昭和十一年中)

船種別	總噸數		噸數		噸數		噸數		噸數		計
	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數		
汽船	登簿噸數	1	1,595	400	445,719	156	42,853	1,377	719,634		
	船數	1	1	1	1	1	1	1	1		
帆船	登簿噸數	1	1	303	156	570	78	735	648		
	船數	1	1	1	1	1	1	1	1		
計	登簿噸數	1	1,595	703	602	156	993	1,112	793,282		
計	船數	1	1	1	1	1	1	1	1		

(ホ) 三池港外國貿易輸出品調

(昭和十一年中)

品名	單位	數	量	價額	主ナル仕向地
石炭	英噸		四、八五、九八九	四、八五、七九八	新嘉坡、香港、マニラ、鴻基
人造藍	斤		四三七、四〇〇	二九三、五六八	上海、ハンカオ、香港
硫酸アンモニヤ	百斤		四、五三三	三三、六三五	大連



馬	塗料及鈴薯	其他ノ染料顔料	生地綿布(粗布)	コイルタール及ピツチ	耐火煉瓦	セメント	硫黄染料	並製薬及調合品	其他ノ薬材化學	炭化石灰	晒粉	クローム明礬	鹽酸	硝酸	硫酸	精糖
百斤	〃	〃	方碼	〃	〃	百斤	斤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一、二五、一			一五、六〇〇	一〇、三三〇	五二、九	四六六、二	五八六、九八三		三、三六三、〇	一八、八	二一〇、四	三五九、八	五五	七、五四八	三五、七四三	
三一、九四三			二、四三七	一六三、六六七	九五〇	二、八九九	一三八、三五五		一七四、近三五	五五〇	一三、八六三	一〇、五七八	四八五	二八、九八八	三三、七四四	
新嘉坡			上海	上海	上海	香港、グアム	香港、新嘉坡、上海、マドラス		新嘉坡、マニラ、香港	上海	上海、マニラ	新嘉坡、マニラ、香港、上海	新嘉坡	新嘉坡、マニラ、香港、イロイロ	蕪湖、鎮江、漢江	

## (へ) 三池港外國貿易輸入品調

(昭和十一年中)

品名	單位	數量	價額	主ナル仕出地
メリヤス手製	打	四〇、〇〇	三、四〇〇	マニラ
丸太及割材(松杉)	立方米	三、四八六	三、四二一	大連、秦皇島
其他			八四、〇九六	マニラ、香港、上海、ハンカオ、シ ドニー、新嘉坡、ラングーン、大連
計			六、二五〇、一〇九	
ヒマシ油	斤	四三	一三	グラスゴー
砂糖	百斤	一〇、五七、六	五三、三〇六	スラビヤ、セマラング
天然發醇ニヨル糖	立	二〇	一〇	不祥
葡萄酒	百斤	二七、三〇九、三	二三五、二九〇	オークランド、トーレビイヂヤ
鹽(粗製)	百斤		六	グラスゴー
其他油脂臘製品	〃		九九八	ニューヨーク
其他ノ藥材化學	〃		四四三	ニューヨーク、新嘉坡
藥及調合品	斤	三六〇	一、二二九	グラスゴー
イソキ	斤	二、〇三三		
其他ノ類似填充料	〃			

マニラヘンプ	粘土	石炭	石墨	鐵鑛	亞鉛鑛	金屬製品	亞鉛(塊錠及粒)	壓力計	タコメーター	機械類	麩類	豆糟	其他	計
百斤	〃	英噸	百斤	〃	〃	百斤	百斤	斤	百斤	百斤	百斤	〃	1	
一六九、一	四、三八六、六	四八、九二四	九	七、二八、七	六九、三五、一	二、七三七、九	四六		一、一〇四、二	四六、五				
二〇、三〇三	三四、四九六	六三六、五九九	六三三	六六、四〇九	二、七五三、四七七	五二、五九三	四四一、二三九	五四四	一、五〇七	一、〇四八、五八〇	三七、一三〇	二、四三三	二二、六四〇	五、九二六、八六二
マニラ、セブ	秦皇島、復州	鴻基、レンヤンチヤン	ニューヨーク、グラスゴー	ブリタニアベーチ	ラングーン、タンピコ、葫芦島	グラスゴー	ニューウエストミンスター	グラスゴー	クレピランド	ニューヨーク、グラスゴー、パリ	ハンカオ、大連	ハンカオ	爪哇、合衆國、比律賓、大連、ハンカオ	ニューヨーク、グラスゴー、マンピール、クレピランド

(ト) 三池港特別輸出品調

(昭和十一年中)

品名	單位	日本船		外國船		計(價額)
		數量	價額	數量	價額	
米	百斤	八〇九、三	一一〇、五三五	四五〇	六、一五四	一二六、六七九
鹽	〃	一九三	三八八	二四	五七	四四五
飲料水	英噸	四六、二九七	一三、八九四	三六、〇九六	一〇、八三九	二四、七三三
鳥獸肉	〃	〃	一一、六九四	〃	九、三六三	二一、〇五七
蔬菜及果實	〃	〃	一一、〇三三	〃	七、〇三三	一八、〇四五
魚類	〃	〃	九、五四一	〃	三、三〇三	一一、八四三
酒類	〃	〃	六、八六九	〃	三、一三三	九、九九一
礦水及其他飲料	〃	〃	一、六三三	〃	八五三	二、四八六
其他ノ食料品	〃	〃	五二、六二〇	〃	一〇、九六八	六三、五八八
油脂及蠟	〃	〃	九八、四六五	〃	二、五三四	一〇〇、九九九
金屬及同製品	〃	〃	一〇、八四〇	〃	一、一四九	一二、九九九
石炭	英噸	四六九、四八五	四、三九三、九七五	四三三、八三九	四、三三五、一七六	八、七二八、一五一

品名	數量	價額	主ナル仕向地
石炭	二五、九五〇	二、三五、九〇〇	橫濱、名古屋、大阪、宇部、尾道、門司、津久見、小野田、坂出、朝鮮、高松
コークス	一七、四九三	一、五四八、一八三	新深、橫濱、與南、鎮南浦、佐賀關、四坂、神戸、門司
亞鉛	一七、七二六	六、二〇〇、六〇〇	大阪、芝浦、橫濱、神戸
亞鉛板	三、〇五六	一、二八四、六四三	大阪、芝浦、橫濱、名古屋、清水
亞鉛末	一、九三四	六七六、九二四	大阪、芝浦、橫濱、名古屋、神戸、鎮南浦
ボイラジシク	二六八	一三〇、九〇九	大阪、芝浦、橫濱、名古屋、神戸
鉛	二二三	六、八九八	大阪、芝浦、橫濱、神戸
リトボン	三三七	五八、九五〇	大阪、芝浦、橫濱、神戸
電解亞鉛	一七九	八二、〇〇〇	大阪、名古屋

(子) 三池港内國移出貨物調

(昭和十一年中)

船具	其他	計
四〇、九二〇	八六、三五九	四、八四六、六四六
三、三五〇	二〇、五五六	B、B011、B114
四四、二七〇	一〇六、七九五	九、二五〇、〇六一

煉瓦 黒鉛 モルタル 藥品類 染料類 クレオソート油 ペンゾール ピツチ 硫安 石灰窒素 機械類 鐵材類 鐵管類 ドラム空罐 古金物

二、五三三 三三三 四 三、三三三 四、六二七 一、六九九 六、六三四 九四 七、五九三 二、三三三、三九五 五、七二〇 三、四 三、四 六 六〇 二四 三二 二、五、〇七一 二〇〇 八、四〇三 二、四七七、三一九 二、三三七、一六四 三三二、六四八 一七、〇八五 一三九、〇八〇 一三、一八五、六七三 四八八、六五四 三六、四〇四 八七五 三、九三三 五、四八八 一、五二一

芝浦、釜石、神戸、横濱、津久見、大阪  
 基隆  
 釜石、芝浦、横濱、名古屋、神戸、那覇、  
 大阪、芝浦、高野、高野、高野、高野、  
 郡山、芝浦、横濱、名古屋、三津ヶ濱  
 大坂、芝浦、新瀉、鹽釜、八幡、宇之島、馬瀉  
 大坂  
 鎮南浦、釜山、仁川、基隆、高雄  
 基隆、高野、芝浦、名古屋、清水、鎮南浦  
 尾道、宇野、新瀉、徳島、郡山、木浦  
 基隆、高野、釜山、群山、仁川、木浦  
 芝浦、横濱、基隆  
 大阪  
 大阪、横濱  
 大阪  
 大阪

硅素樽材料	パイライトシング	カーボン	レトルトカーボン	大豆粕	水飴	藻朮	繩	煉炭	綿實粉末	麩	黒糖	白糖	砂糖	硅素鐵
三八	一四、八八九	三九五	一〇三	二六	一	二九三	一七四	九	一二三	三八三	二六五	三九	一、四〇四	一六九
一、〇九五	三七、三三三	二二、八八三	三、六〇九	二、三〇六	二九〇	一三、九八六	六、六五六	三八	五、六四	二一、〇三二	四七、八三三	七、六五六	三九七、四六八	八、五〇七
基隆	八幡	基隆	蒲浦	有明海沿岸	有明海沿岸	那覇	那覇	那覇	有明海沿岸	有明海沿岸	有明海沿岸	有明海沿岸	那覇、大阪、有明海沿岸	神戸

品名	數量	價額	主ナル仕出地
石炭	五、三九三 <small>噸</small>	二六、四五五 <small>円</small>	杵島
コークス	一〇	一三〇	横濱
藥品類	六、三九三	五七八、〇三七	大阪、門司、釜山、室蘭、高尾、神戸、名古屋、廣島
機械類	二、三三〇	一、〇五〇、六六三	大阪、芝浦、横濱、門司、長崎、神戸、若松、尼ヶ崎
鐵材類	一、九三二	三一九、六八一	大阪、神戸、横濱、尾道
鐵管類	七七四	二〇一、三九七	大阪、横濱

(リ) 三池港内國移入貨物調

(昭和十一年中)

亞鉛燒耐	五	五五〇	伏木
玉石	三	一、八〇〇	大阪
ダライ粉	九	二、五五五	大阪
雜金屬材料	八	六、三〇〇	大阪、芝浦、横濱
其他雜貨	一一五	三六、四九九	芝浦、横濱、大阪、神戸、釜山、基隆
計	四六九、四六八	三、二四二、一〇八	



鉛板	レール及附屬品	流安空瓶	ドラム空罐	砂糖	白糖	黑糖	麩糖	繩	藁	赤糖	臺灣米	混合飼料	グライ紛	硫酸鐵鑛
----	---------	------	-------	----	----	----	----	---	---	----	-----	------	------	------

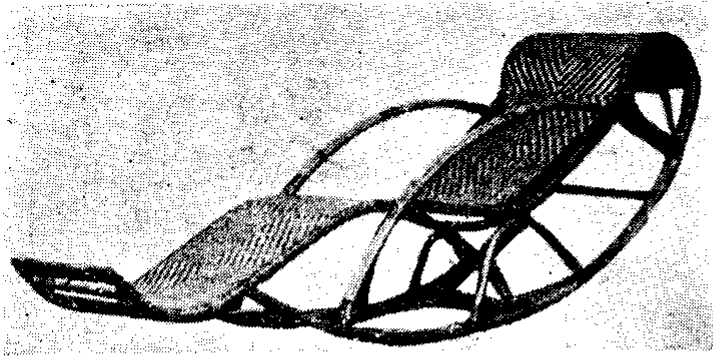
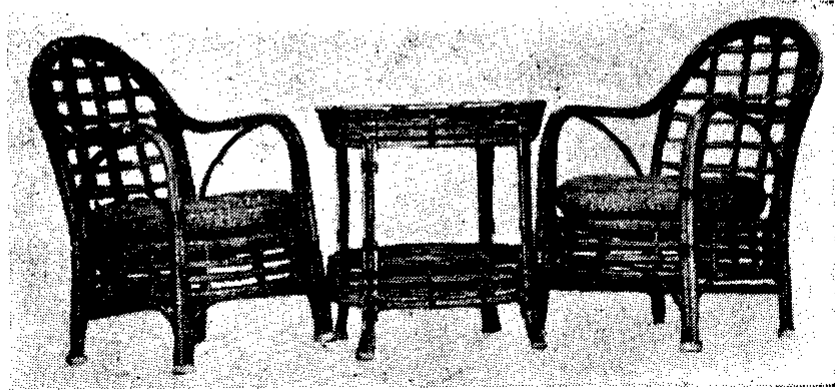
三九	三三	三三	三三	二六、一〇三	二、一四四	三、六三七	三四一	六四	二九	三〇	三四	三〇	三、六四三	五九、三三九
----	----	----	----	--------	-------	-------	-----	----	----	----	----	----	-------	--------

五三	四、三八七	五、四三六	六、六七六	八、〇五〇、五六三	四四、三三九	六八、五七八	一九、八九〇	二、四四三	一、四一〇	三、九五〇	六、九〇六	一、五〇〇	九、〇八五	八九〇、〇五九
----	-------	-------	-------	-----------	--------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------

大阪	大阪	大阪	大阪、神戸、三津ヶ濱	高雄、那覇、横濱	那覇、三角	〃	仁川	有明海沿岸	〃	高雄	高雄	三角	大阪、名古屋、廣島、宇野	片上、八戸敷
----	----	----	------------	----------	-------	---	----	-------	---	----	----	----	--------------	--------

硫酸瓶用空箱	硫酸空瓶	洋樽	スパイラルリング	罐詰類	米松角材	松丸太	ベンゾール	亜鉛鑛石	ボーキサイド	蠟石粉	エンゴロ	重晶石	粘土	硅石
三	一〇	三	六五	六七	六	二六八	四、五〇三	五、一三六	二	二	三八六	五一五	二、九九三	二、六九三
一〇六	四八九	一、七五〇	七、五九六	九、三〇三	二七六	九、〇三二	四九五、三三七	三一九、八五二	一六〇	一〇五	四、六三八	一一、五九三	五五、八三六	一八、五七八
那覇、大阪、長崎	那覇、大阪、長崎	尼ヶ崎	名古屋	高雄、大阪	大阪	清津	釜石	龍塘浦、敦賀	高雄	片上	名古屋	龍塘浦	名古屋	敦賀

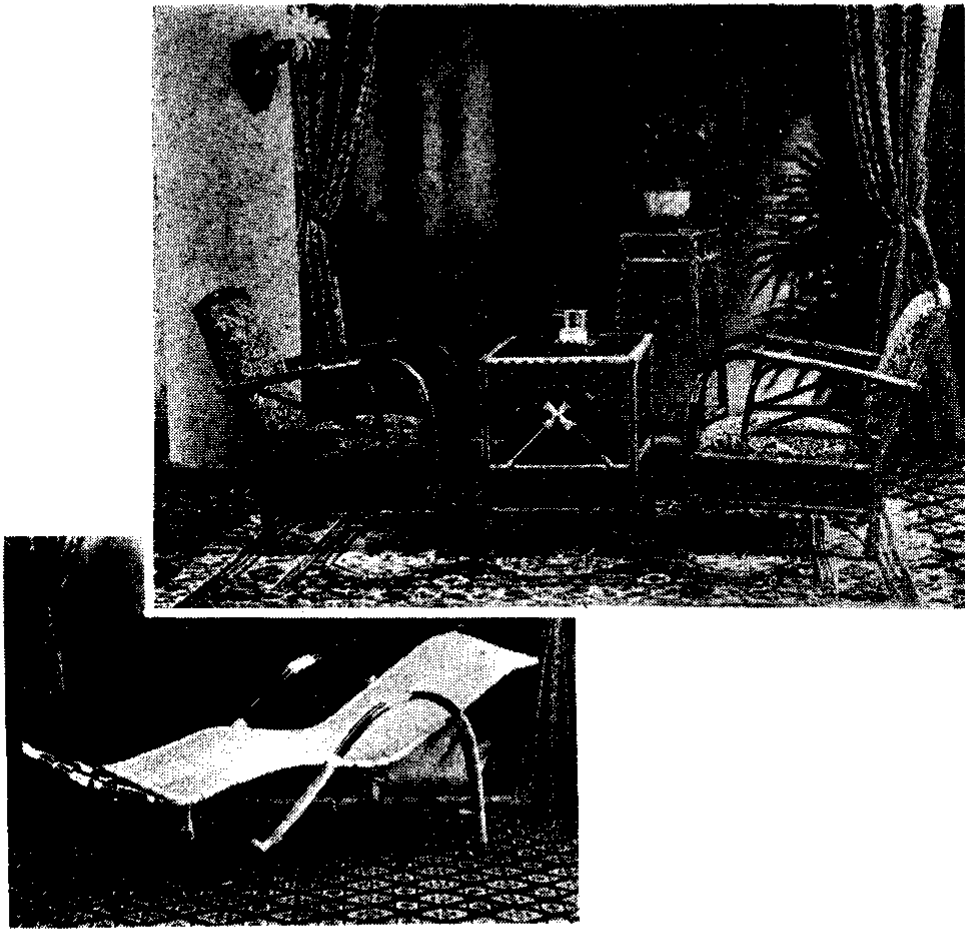
計	其他雜類	雜金屬材料	新裝罐新箱入	セメント
一三六、五七	六九〇	二七	三六〇	六、四九三
一三、八二〇、六三	二五、五〇	三三、三五	七三、一九三	一七二、五三
	大阪、神戸、今治、下關、尾道	大阪	大阪、神戸	徳浦、八幡、宇部、津久見、門司



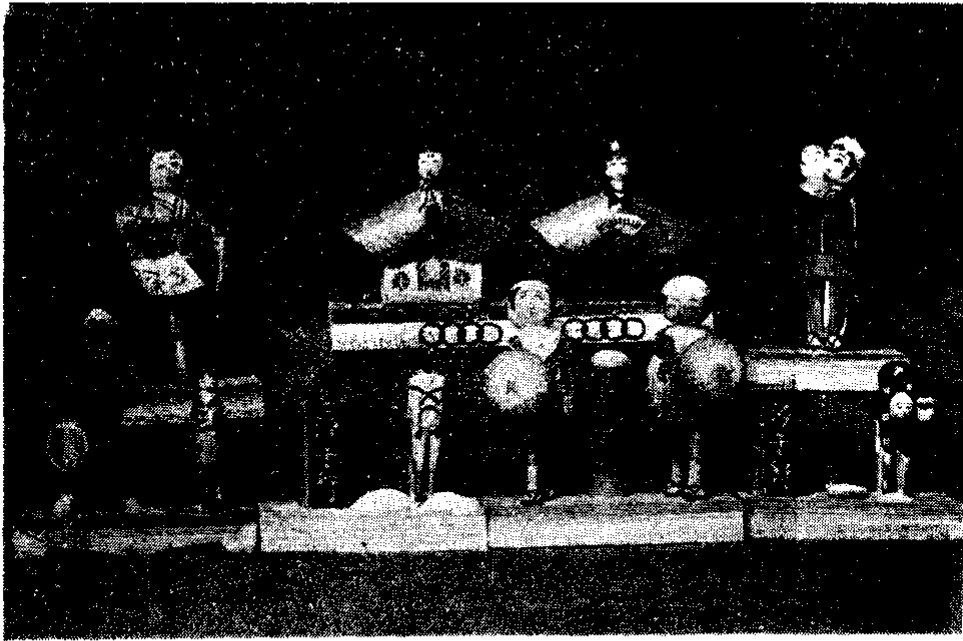
## 特 産 品

### 一、籐製品

本市生産品は三井其他の大工場製品が殆んど大部分を占め市内特産品としては僅かに地先有明海特産の海苔、貝類加工品及蒲鉾竹輪、カステーラ饅頭等の食料品の生産あるのみにして工業製品を有せざるは甚だ遺憾とする所なるを以て昭和九年六月本市は市内特産品の造成並副業奨励の目的を以



て籐加工講習會を開催し次いで九月一日籐加工副業組合の組織を見該品製造に着手するに至れり製品は主として籐椅子、テーブル、籐籠籐枕の類なるも技術の優秀と製品の堅牢なるは他の追従を許さざる處なり故に各地よりの注文殺到し累年増産を示し日々隆盛の域に達しつつあり。



## 二、海苔竹人形

不知火の御神火を秘むる有明海の名産品海苔の笹竹を利用加工したる素晴らしい郷土藝術品が海苔竹人形にして昭和十年六月初めて本市工藝研究所に於て製作せられ呱呱の聲を擧げたり一度此の種の人形世に出づるや全國鑑賞家の間に絶大の好評を博せり

製作品は多種多様にして其の主なるものは樂港大牟田見物、二宮金次郎、子守、だるま、さ



る、たぬき、潮干狩、鳥追、草刈娘  
 其他花臺、水盤各種、タオル掛等最  
 新技術をこらし製作せり、特徴とし  
 ては該竹は長日月に亘り海水に浸り  
 たる爲絶體に腐蝕の恐れなく且つ全  
 体丸竹を利用したるを以て特徴とせ  
 り。

### 三、蒲 鉾

本市蒲鉾業は最初龜崎氏本縣下柳河より明治二十三年の頃本市に轉住して始めて之が製造を開始せしに始まり次いで之が傳授を受け漸次製造者を増すに至り、明治二十八年大坪氏、明治三十三年平川氏等相繼ぎ現今同業者合して十三戸に及び年産額三十萬圓を超へ同業者にて組合を組織し共同一致製品原料の精選品質の向上に留意し聲價を擧ぐるに努めつゝあるが本品は既に東京、京阪地方及宮崎、熊本、佐賀等の近縣にも相當販路を有し至る所賞讃の的となり前途益々洋々たるものあり

### 四、海 苔

本市の海苔養殖は古く明治三十八年にその端を發す、當時は其の養殖方法並に製造等に經驗乏しく爲に再三失敗を重ね來りしが大正四年大分縣より斯業の權威者を招聘し銳意之が研究に努めたる結果大正九年及同十年に至り相當の成績を擧げ殊に本縣に於ても斯業の有望なるを認め一般に獎勵を加ふる事となり漸次當業者を増し現今に及べり。

今や當業者七十戸を算し養殖面積二十萬坪内外十三萬圓余の年産額を有し關東、關西、九州各地は勿論、遠く滿洲、上海方面迄販路を有し殊に昭和七年保証責任大牟田海苔信用販賣購買組合の設



立に依り製品の向上に販路の統制に一段の努力を拂ひつゝありて將來の増産と共に愈々世人の矚目するところとなれり。

### 五、貝柱粕漬及貝類佃煮

不知火の名にし負ふ有明海に産するたひらぎ貝の貝柱を原料として酒粕に獨特の調味を施し漬込みたるものにして不知火漬、濤漬、千鳥漬等の名稱を冠せり。佃煮は各種の貝柱を原料とし調味したるものなり。共に贈答用、土産品として賞用せらる。

### 六、カステーラ饅頭

本市の名産カステーラ饅頭は明治二十八年の創始にして爾來研究改良を重ね現在に至り今や其の風味と品質に於て全國的名物の一となり各地博覽會、共進會、品評會等に出品して常に優秀なる成績を收め年産額十五萬圓、内地は勿論海外へも販路を有し益々名聲を博しつゝあり。

## 大牟田観光協會

市廳産業課に事務所を設置し旅行日程の作成、名勝舊蹟の説明、交通、旅館の案内等、觀光に關する一切の事務を掌理し觀光客の利便を圖りつゝあり。



